1　研究活動の概要

県では、「岩手県農業・農村基本計画」を踏まえ、地域の立地特性を生かしながら、持続的な展開が可能となる農業を構築するための試験研究の指針として「岩手県農業試験研究推進構想」（平成 12 年 3 月策定。以下「推進構想」という。）を策定している。

本センターでは、この構想に基づき、

- ○　バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良
- ○　国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発
- ○　自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発
- ○　環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立
- ○　地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立
- ○　中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発
- ○　農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発
- ○　栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立

という８つの基本方向に即して、時代を先取りした試験研究を着実に進めてきている。

平成 16 年度においても、現場ニーズに基づく課題等を選定し、内部・外部の評価を加えて、新規 117 課題、継続 267 課題、合計 384 課題に取り組み、144 の成果をとりまとめた。

これらの試験研究の推進にあたっては、「試験研究評価制度」の円滑な運用や産学官との連携に取り組むとともに、研究成果については、迅速な普及・定着化に努めた。

また、試験研究の方向や体制、試験研究課題の重点化等については、平成 15 年 10 月に策定された岩手県行財政構造改革プログラムを踏まえて、引き続き検討して、主幹課等と協議している。

なお、政策課題を推進する機能として、農林水産部の政策形成プロジェクトの取組みにより、企画経営情報部内に「いわて農林水産知的財産相談センター」（11 月）、県北農業研究所内に「いわて雑穀遺伝資源センター」（10 月）がそれぞれ設置され、当センターが業務を担っている。

2　トピックス

(1) りんどうこぶ症研究プロジェクトチームの設置について

りんどうこぶ症に係る研究課題の円滑な実施による早期解決を図るため、関係研究室の共同研究がより効率的に進められるよう、平成 16 年度にセンター内にプロジェクトチーム等を設置し、研究推進体制の強化を図った。

ア　主な編成

【推進プロジェクトチーム】　園芸畑作部長、花き専技及び関係研究室長並びに試験実施グループ員により構成し、園芸畑作部長がチーム長となる。プロジェクトチーム会議は、チーム長が随時招集し、成績・設計の検討、現地検討、対外調整、研究の工程管理等を行う。各年度の重点課題の試験については、原則としてグループ員共同で実施する。

【検討委員会】　センター所長、副所長、首席専技及び関係部長並びにプロジェクトチーム員で構成し、センター所長が委員長となる。検討委員会では、推進プロジェクトチームの取り組み全般について推進状況を検討し、指導、助言を行う。

【試験実施グループ】　花き研究室、応用生物工学研究室、土壌作物栄養研究室、病理昆虫研究室の担当者で構成し、花き研究室長がグループ長となる。会議、調査等は、グループ長が招集し、定例的に開催する。

イ　プロジェクトチームの主な活動内容

(ア)　第１回プロジェクトチーム会議（4 月 19 日、農研）

(イ)　りんどうこぶ症試験研究に係る中間検討会及び第２回プロジェクトチーム会議（6 月 17 日、東北農研。東北農研と合同）

(ウ)　りんどうこぶ症対策実験圃現地検討会（8 月 23～24 日、安代町、松尾村ほか。参加　－各普及センター、全農、農大等）

(エ)　第３回プロジェクトチーム会議（9 月 7 日、農研）
(オ)　りんどうこぶ症現地試験圃合同調査（10 月 22 日、松尾村・石鳥谷町。参加－東北農研、生工研、盛岡・花巻普及センター、農産園芸課）
(カ)　「りんどうこぶ症」高度化事業応募に係るプロジェクトチーム打合せ（11 月 29 日、農研）
(キ)　「りんどうこぶ症の原因究明と発生防止技術の確立」ミニテーブルリサーチ（12 月 3 日、東北農研。参加－東北農研、福島農試、岩手生工研、安代リンドウ開発）
(ク)　第４回プロジェクトチーム会議（17 年 1 月 7 日、農研）
(ケ)　平成 16 年度「りんどうこぶ症」に関する試験研究に係る検討委員会（3 月 14 日、農研）

(2) いわて農林水産知的財産相談センターの設置について

いわて農林水産知的財産相談センターは、農林水産業者等に対し、知的財産（特許、実用新案、意匠、商標、品種登録）の権利の取得や活用の普及啓発・相談活動を行うことによって、農林水産業者等の創造的な生産・加工活動や農林水産物のブランド化などを促進し、本県の農林水産業の体質強化を図ることを目的として、平成 16 年 11 月に設置された。

相談センターの活動内容は次の通り。

ア　農林水産分野での知的財産の権利取得や保護、活用等についての普及啓発に関すること。（県内各地で研修会・相談会の開催）

イ　特許権、実用新案権、商標権、及び意匠権に係る農林水産業者等からの相談に関すること。（特許権、実用新案権、商標権及び意匠権の取得・活用などに係る相談）

ウ　品種登録に係る農林水産業者等からの相談に関すること。（品種登録に係る相談）

本年度は、農林水産分野の知的財産とは何かについて、権利取得や保護、活用についての普及啓発に力を入れ、各地で研修会を開催した。

(3) 岩手県雑穀遺伝資源センターの設置について

ア　雑穀遺伝資源センターは、本県においては食物繊維やミネラルが豊富で、新たな食材として脚光を浴びている雑穀の栽培が古くから盛んであるが、優良種子の選抜・供給による雑穀の一層の生産振興を図るため、平成 16 年 9 月に設置された。
イ　同センターは、県北農業研究所内の旧養蚕飼育棟を利用し、雑穀資源活用体制整備事業により必要な備品が整備され、運営は県北農業研究所が行なうこととされた。
ウ　雑穀遺伝資源センターの業務は大きく次の 3 つとなっている。
(ア) 雑穀原種の生産・供給に関すること
(イ) 雑穀遺伝資源の生産・供給に関すること
i　遺伝資源（種子）の収集
ii　遺伝資源の長期保存
iii　遺伝資源の特性把握
(ウ) 雑穀オリジナル品種の育成に関すること
i　もち性ひえの育成
ii　短稈あわ・きびの育成

雑穀遺伝資源センターの整備により、岩手が「雑穀の宝庫」であることがアピールできること、オリジナル品種育成や優良種子の供給により生産体制の整備や他産地との差別化が図れること、県内や全国的な需要拡大による岩手ブランド産品の育成等の効果が考えられ、雑穀のオンリーワン産地の強化につながるものと期待されている。

３　研究室の動き

(1) 企画経営情報部

企画情報室

農業研究センターにおける試験研究の円滑な推進と成果の普及･定着化のための企画調整及び情報の受発信に係る事務を所掌している。

岩手県試験研究推進会議要綱は、農林水産部の組織見直しと職名の変更、さらに分野の一部再編（畑作分野を農産部会に編入）とこれに伴う専門部会の名称変更（園芸畑作部会を園芸部会と呼称変更）のため、一部改正された。

岩手県農業試験研究推進構想は平成 17 年に中間年を迎えることから、室長等で構成する「課題見直し委員会」を設置し、同構想に掲げる研究目標の到達状況の把握や成果等の中間評価をするとともに、今後に予定する試験研究課題について協議し、センターとしてとりまとめを行なった。

今年度の試験研究の業務については、要望課題の把握と課題の評価・選定、成果の評価・とりまとめ、成果の公表などを円滑に推進するとともに、成果等情報の積極的な広報や情報システムの効果的な運営に努めた。

また、外部評価委員の委嘱替えの年度にあたり、評価の充実を図るため、各専門部会の委員をこれまでより増やすこととし、29 名の委員を委嘱した。

広報関係については、広報誌「トライアングル」の発刊（４回)、「研究レポート」（227 号～278 号）の発行、参観デー（本部・畜産・県北）や現地ふれあい農業研究センター（盛岡、水沢、一関、宮古地方振興局管内)、一日子供研究員の開催（８月、１月)、及び科学技術週間行事としての春季一般公開、ラジオでの放送（毎週金曜日、年間 53 回）を行い、積極的に情報を提供した。

企画調整については、センター内諸会議（企画運営会議、全体会議等）や委員会（研究報告等企画編集委員会等）等の運営、関係機関（国、県及び関係団体）との連絡調整（推進会議等）を行った。

研究員の研修派遣については、（独）農業・生物系特定産業技術研究機構等の依頼研究員（6 名）や、農林水産省が主催する中核農業研究員（2 名)、大学院（1 名）などに派遣し、研究員の資質向上に取り組んだ。また、海外技術研修員については、タイ・ハンガリー（JICA 草の根技術協力事業)、中国（岩手県海外技術研修員事業）からそれぞれ 1 名（計 3 名）を受け入れし、農業技術の習得を支援した。

農業経営研究室

生産性の高い経営管理方式の確立、担い手の育成支援方策、地域活性化方策、県産農畜産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

生産性の高い経営管理方式の確立では､水田作を中心とした集落型法人が経営体として自立し発展していくための条件として、経営内に水稲や畑作物以外の高収益作物を導入・定着させ、法人専従者の周年就労・所得確保を図ることが必要であること､及び必要な経営規模を確保するには集落の枠を超えた経営展開を考慮することが必要であることを提示した。また、酪農法人の経営管理の実態分析から、経営体としては企業的経営形態をとりつつあるが、法人化そのものを目的とせず経営管理の高度化に配慮した展開に努めることが課題となること､及び雇用依存や施設の高度化が進み、労務管理が一層重要となることを提示した。

さらに、イチゴの超促成作型においては、夏秋期収量の向上が課題であり、1,000kg/10a 程度まで向上させることで、収穫労働を分散させ、県内先進的イチゴ作経営体と同程度の所得確保が期待できることを提示した。

担い手の育成支援方策では、経営環境に応じた想定規模及び栽培様式等を考慮して、新たな生産技術体系を策定するとともに、体系データの作成・修正を容易にするための様式や作成方法を明確化した。

県産農産物の販売戦略では、葉とらずふじの効果的な販売方法として、試食や自家消費に対応した小売販売で消費者の認知度向上を図ること、販売チャネルとしては、他産地の葉とらずふじやブランドリンゴの販売実績のない販売店を対象とした「すき間の販路開拓」を行うことを提案した。また、県内産ねぎにおける通いコンテナ出荷では、計画生産や価格安定が期待できる契約的取引の推進につながること、さらに、出荷容器代の低減が可能であり、生産者の収益向上が期待できることを明らかにした。

(2) 農産部

水田作研究室

水稲の奨励品種決定調査、直播栽培・ロングマット水耕苗育苗技術を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、水田機能を活かした飼料生産（ホールクロップサイレージ用稲の栽培技術）、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立及び水稲原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定本調査では、中生の「岩手 68 号」（良食味、耐冷性極強、穂いもち耐病性強）を有望と認め奨励品種候補として提案した。平成 17 年度は品種特性を活かし減農薬栽培も含め栽培法の検討を行う。また、予備調査では有色素米の「岩手紫 76 号」など粳５系統を有望と認め新たに本調査・現地調査に供することとした。

平成 16 年は、活着期の低温により穂数・籾数はやや少なかったものの夏季の高温の影響により登熟歩合は高く、作況指数 102（10a 当たり収量 543kg）と平年並みの作柄となった。しかし、刈り取り時期の長雨による収穫の遅れや、復元田での倒伏等が多く１等米比率は 88.6%（H17．２末現在）と例年より若干低く、一部地域では白未熟粒の発生が多く今後の課題として残った。

雑草防除関係では、移植栽培における効果の高い水稲除草剤４剤（初期一発剤１剤、初・中期一発剤１剤、中期剤１剤及び直播栽培用一発処理剤１剤）を県防除基準に採用した。また、新除草剤の効果試験（適 2 試験）では 17 剤を供試し 9 剤について実用性が高いと判断した（一部実用性あり、県北研も含む)。SU 系除草剤抵抗性雑草の防除対策に本年から取り組み、県内の発生実態について調査するとともに、ALS 検定のオモダカ・コナギの安定した検定部位と採取時期を明らかにした。

直播栽培では、出芽苗立ちの安定化とコーティング～播種作業時の作業性向上をねらいに、コーティング種子の加温処理と貯蔵期間・貯蔵条件を成果として取りまとめた。ロングマット水耕苗育苗技術に関しては、播種後直後の育苗ベッドの被覆保温効果と巻き取り前の追肥時期の効果を明らかにした。ホールクロップサイレージ用イネの栽培では、収穫・調整体系別の特徴と機械収穫に対応した地耐力確保のための水管理について成果として取りまとめた。

水稲原々種は 5 品種（59 系統）316kg、原種はうるち 5 品種 23,440kg、もち 2 品種 2,160kg、及び新品種「岩手 68 号」を特別増殖し 860kg の種子を生産した。

水稲育種研究室

生産力検定試験において、62 組合せ 90 系統を供試し、24 組合せ 31 系統を選抜した。また、生産力検定と各種特性検定試験の結果から、岩手 77 号（早生の晩、良食味で特に粘る)、岩手 78 号（晩生の早、多収、葉・穂いもち強、耐冷極強、良食味)、岩手酒 79 号（中生の晩、低グルテリン酒米)、岩手 80 号（晩生の中、低アミロース米、品質良)、岩手糯 81 号（早生の中、良質、葉・穂いもち強)、以上主食用３系統、糯１系統、新規需要１系統、計５系統を有望と認め、地方番号を付し、平成 17 年度奨励品種決定調査のための新配布系統とした。

直播生産力検定試験等では２系統が有望と認められた。また、新規需要及び新形質米の育成試験では、低アミロース２系統、酒米２系統、糯３系統が有望と認められたことから、以上を次年度の生産力検定試験で継続検討する。

育種技術の効率化に資する目的で取り組んだ課題「分子マーカーを用いた選抜技術の検討」では、「岩南 23 号」が穂いもち圃場抵抗性遺伝子 *Pb1* を確実に持つことをほ場における対立性検定により明らかにし、また DNA マーカーにより *Pb1* を優性ホモで持つ個体を選抜した。さらに、生物工学研究所との共同研究により、水稲重要形質と連鎖したマーカー探索のための RILs(雑種後代自殖系統群)の育成と連鎖解析に関する水稲の形質調査を実施した。

「高度耐冷性水稲品種・系統の育成」の課題では、耐冷性極強を超える品種・系統の耐冷性ランクの判定精度を高める手法と簡易選抜法を示し、研究成果としてとりまとめた。

モチ米種子の優良種子生産のための課題「双胚米発生機構の解明」では、双胚米の発生頻度、品種間差等の発生実態を示し、低温処理や自殖による双胚米の再現を試みた結果、明確な要因がないことを明らかにし、研究成果としてとりまとめた。

東北農業研究センター等の独立行政法人及び国の指定試験地、また、それ以外の東北地域の育成地で育成された系統についての本県への適応性について系統適応性検定試験を行った。

耐冷性極強を超える品種育成のため、耐冷性に関して東北各育成地間共同で東北地域特性比較連絡試験を実施した。

応用生物工学研究室

オリジナル品目・品種の開発に関連する組織培養法を利用した増殖技術開発や、育種を加速・支援する技術開発などの手法開発を中心に研究している。

リンドウ F_1 品種の採種用親株の増殖に関しては、主要な採種親である 13 系統のエゾリンドウにおいて、葉片培養法などを利用して既に技術開発した 4 系統に加え、新たに 7 系統の増殖技術に目処を付け、「りんどう生産拡大緊急対策事業」において順次実用化を図っている。なお残る 2 系統については、越冬芽を利用した増殖方法を検討中である。

スターチスの本県オリジナル栄養繁殖系品種であるアイスターシリーズについては、H13 年度にその増殖技術を開発して（社）岩手県農産物改良種苗センターに技術移転したが、コストの低減が課題として残されていた。そこで、高い増殖率が得られる培地を新たに考案し、生産費を従来法の約 67%に低減する技術を成果として取りまとめた。

H15 年から着手した県産米の品種識別技術開発では、混米を想定した定性・定量分析手法を開発し、実用的場面を想定してこの手法を CD－ROM にまとめた。また、いもち病真性抵抗性遺伝子 *Pia* に連鎖するマーカーの検出に成功し、成果として取りまとめた。さらに、品種識別や真性抵抗性遺伝子に関する研究の過程で得られた各種のマーカー情報を、データベース化した。

りんどう「こぶ症」については、本年度からプロジェクトチームに参加して研究を開始し、診断基準となる組織学的特徴とこぶ組織内成分がオーキシン様物質である可能性が高いことを基礎的な成果として取りまとめた。また、組織培養法を利用して「こぶ症」が栄養繁殖により伝達することを明らかにして成果に取りまとめ、現地における「こぶ症」株を利用した挿し木繁殖による発症圃場の拡大に注意を促した。

生産工学研究室

水稲育苗・移植作業の軽労化を目的として「ロングマット水耕苗移植栽培技術」の実用化研究を進めており、前年度に引き続き農家 2 戸による現地導入実証を行った。本年は農家自ら実施した水耕育苗に対して技術支援を行うとともに、田植機についてもメーカー等の協力を得て農家が所有する田植機を改良して移植した。

麦・大豆立毛間播種栽培については、寒冷地の当県にとって厳しい条件ではあるが、2 年 3 作技術体系及び導入モデルでの試算など、研究最終年度における成果について主査研究室として取りまとめた。

また、「岩手県高性能農業機械導入計画」の改訂作業を農業経営研究室及び農産園芸課とともに前年度から取り組み当研究室としてもその作成に力を注いで進め、基礎資料の作成、協議を重ねて本年度完成に至った。

グラウンドカバープランツ（GCP）の動力吹付緑化工法については、平成 14 年度に施工した農業研究センターほ場法面の GCP の被覆状況をもとに、施工管理経費と施工３年目における生育評価を行い、寒冷地における景観形成・法面緑化の一工法として成果に取りまとめた。

水田ほ場の暗渠配水管を有効利用した地下かんがい排水技術については平成 14 年度から取り組んできたが、これらの調査結果により、暗渠に明渠を組み合わせることによって簡易な水田ほ場地下水位制御方法が可能であることを取りまとめた。

環境に配慮した農村整備手法研究については県内２カ所で調査をおこなった。ホタル水路の復元については、石灰石・堰堤の設置、カワニナの放流を平成 15 年度に実施したが、放流１年後もカワニナの生息を確認した。また、18 年度以降に工事実施が予定される川崎村Ｋ地区については、岩手大学と連携しながら環境配慮に関する体制づくりを支援するとともに水源・水質・水路環境などの調査を行った。

(3) 園芸畑作部

果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種開発を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、地域基幹農業技術体系実用化研究「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」により、これまでの外観本位から、消費者が求める食味本位の果実生産に重点を置いた省力栽培技術の開発を目指した研究に取り組んだ。この課題は、着色管理を限りなく省略した食味本位のリンゴ（葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等）を安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を高度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものである。本年度は最終年にあたり、葉とらずりんごの樹体構成法、同じく非破壊選果機利用技術、着色管理における玉回し作業の省力化、新規摘花剤及び新規摘葉剤利用法を明らかにした。

16 年度新規課題としては、農薬のドリフト防止や省力化を目指して「クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立」に関する研究を開始し、受粉専用品種の選抜や花芽着生大苗育成技術の開発、既存樹への高接ぎ法の検討などに取り組んだ。

リンゴの品種開発では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交雑育種に取り組んでおり、本年度は「黄香」の栽培特性解明の一環として S 遺伝子の解析をもとに主要品種との受粉親和性を明らかにした。また、「王林」に代わりうる有望品種として「シナノゴールド」の果実品質や日持ち性などに関する特性解明を進め、県の奨励品種とした。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発及びヤマブドウの結実促進技術の開発を進めている。また、品種開発では 5 系統を二次選抜に編入し調査を継続するとともに、導入系統の中から食味良好な紫赤系品種「サニールージュ」の特性を明らかにし、県の奨励品種とした。

西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーについては、国内外の有望品種の本県への適応性と特性検定を主体に試験を実施している。

野菜畑作研究室

畑作物では、生産、実需、流通の各側面から、実需者ニーズに対応した安定品質・安定生産技術の確立が強く求められており、緊急に解決をはかるため、品種選定と栽培法の確立に取り組んだ。

大豆は、優良品種選定・栽培法試験において、有望系統の現地での実証ほを３カ所設置し、県内の豆腐、納豆、味噌業界や工業技術センターと連携して実規模での加工検討を行った。この中で、極早生大豆「ユキホマレ」を奨励品種に編入するとともに、同品種を麦後に輪作する際の栽培法を検討したほか、中生大豆「リュウホウ」、納豆用有能系統「東北 146 号」の品種特性を取りまとめた。また、地力や窒素施肥と大豆タンパク含量の関係を解析し、地力向上が高品質かつ多収につながることを実証した。

小麦は、東北農研、工業技術センター、県内パン、めん業界と共同で高製パン性小麦品種「ゆきちから」の実規模での試作評価を実施した。また、高タンパク含量で安定多収をはかるための栽培法を取りまとめた。

「冬期播種栽培による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立」は重点的に研究を推進し、学会報に成果を掲載するとともに、新聞報道での発信や普及センターを通じた技術の普及につとめた結果、２地域で現地推進プロジェクトができ、播種面積も 115ha まで拡大した。

さらに、大豆、小麦等は水田転作などで栽培が増加しているが、不順天候や排水不備などにより収量、品質が不安定であることから、専門技術員が中心となって作成した「岩手県畑作物指導指針」において、麦類、豆類に関してこれまで提供してきた技術をわかりやすくまとめて掲載した。

原種生産では、需要が増加している小麦、大豆原種の増産と品位の向上につとめた。

野菜では、労働力の脆弱化が進行する中で、消費地や地場のニーズに合った生産や、輸入の増加や量販の拡大に対応する低コスト化、高品質化が緊急の課題となっており、ねぎ、きゅうり、トマト、ピーマン、イチゴの品種選定と栽培技術の確立に取り組んだ。

輸入急増対策として４研究室でプロジェクト的に取り組んだ「ねぎの産地力強化のための低コスト、長期安定供給技術の確立」については、各研究室の研究目標をほぼ予定どおり達成し完了した。研究結果は「岩手県産ねぎの経営改善マニュアル」として一般向けに取りまとめを行い、関係機関・団体等に配布した。

きゅうりハウス作型での適品種選定については、有望な品種の特性を明らかにするとともに、露地用台木かぼちゃ品種の特性を明らかにした。ピーマンは、PMMoV 抵抗性（L^3）有望品種の特性を取りまとめた。

また、点滴潅水設備のないきゅうり栽培において、秋期収量の安定化のため、液肥のかん注追肥技術を確立した。

独法委託研究として取り組んでいる「東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発」については、現地実証の推進により夏秋期と春期の二期どり作型における技術目標が明らかになり、個々の技術もほぼ出揃い、まだ課題はあるものの現地実証組み立ての段階に達した。

花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の開発を行うとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、①りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、②スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、を主眼に選抜を行った。本年度は、りんどうの早生品種の「極々早生１」及び「早生３Ｓ」、小ぎくの９月中旬咲き品種「アイマム　ピュアホワイト」、更にはスターチス・シヌアータの栄養系品種「アイスター　ソフトピンク」、の４品種を育成し、県の奨励品種とした。

なお、りんどう種子の安定供給による生産振興を図るため、引き続き政策形成プロジェクトで「りんどう生産拡大緊急対策事業」により、原々種の安定採種、親株の大量増殖、新規親系統の育成等に取り組んだ。

新商材開発では、枝物花木について国庫事業を引き継ぎ、県単新規課題として①早期成園化技術の確立、②整枝・

仕立て法の確立、等を進めるとともに、「いわて乙女」やスターチスの安定生産技術の確立等に取り組んだ。
長期継続出荷技術については、小ぎくの作期拡大やりんどうのコンテナ促成栽培等に取り組み、本年度は、小ぎくアイマムシリーズへのエテホン処理による開花調節効果や定植前摘心栽培技術について成果を取りまとめた。
また、りんどうこぶ症に係る研究課題の円滑な実施による早期解決を図るため、所内に設置したプロジェクトチームの主査となり、応用生物工学研究室、土壌作物栄養研究室及び病理昆虫研究室と共同で、現地試験圃の設置や発生実態調査等に取り組んだほか、東北農研センター等の関係機関・団体と緊密な連携のもとに研究を行った。

南部園芸研究室

南部園芸研究室では、県南部や南部沿岸地域の気象条件を活かした野菜花き園芸技術の開発と、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を行なっている。
野菜に関する試験では、イチゴの短日処理による秋出し超促成作型の確立のための適品種の検索、イチゴの低コスト化や環境保全を目指した高設栽培技術の確立試験を行なった。また、高規格ガラス温室（以下、ガラス温室という）における養液トマトの周年栽培の本県における導入の可能性についての知見を得るための実証試験を行なった。本年度は、ガラス温室における温度推移の特性評価や暖房デグリアワーの試算結果による気象的観点でのガラス温室導入の地域適応性を明らかにした。また、隣接県におけるガラス温室によるトマト養液栽培導入事例の特徴や問題点をデータとしてまとめた。（研究成果「指導」区分２題）
花きに関する試験では、アレンジメントアスターの隔離床栽培法の確立、アネモネの年内穫り作型における高品質栽培やアネモネのコンテナ栽培技術の確立についての試験を行なった。また、太陽光発電を利用してヒートポンプによるトルコギキョウの冷房育苗を行い、発電効率や対象品目の品質向上を図るための試験を行なった。本年度は「アレンジメントアスター隔離床栽培の可能性」として、培地量や開花期の前進化を明らかにした。（研究成果「研究」区分）

(4) 生産環境部

環境保全研究室

かけはし人事交流により沖縄農試の研究員１名が１年間配属されるとともに、JICA 研修員１名（ハンガリー国）を２か月間受け入れた。試験研究は、重点目標の持続的生産管理技術体系の確立に向け以下の課題に取り組んだ。
農業農村が持つ環境保全機能維持に関して、水田環境の評価法を検討するために県内の水田や用・排水路でのトンボ幼虫等水生昆虫の生息実態を明らかにした（研究成果・研究）。また、肥料・農薬等に起因する負荷軽減に関して、化学肥料削減等による硝酸性窒素負荷軽減効果を評価するための現地試験、水稲防除体系の変化に伴う農薬の水系への負荷軽減効果を評価するための現地調査を行った。
持続的生産管理技術の総合組立に関して、露地きゅうりのうどんこ病の防除において酸性電解水を利用する場合の防除体系への組み入れ方を示した（研究成果・研究）。また、産地ＰＲの一方策の基礎として里地・里山の生き物データベースを作成した（研究成果・研究）。さらに、水稲の減農薬・減化学肥料栽培技術体系の管理システム化に向け実証試験を現地３か所で行うとともに、温度勾配チャンバー中でイネを栽培し、堆肥の化学肥料代替施用時におけるいもち病感受性の変動を検討した。
食の安全・安心支援に関して、カドミウム吸収抑制試験を実施し、水稲では生育期の茎葉カドミウム吸収量が玄米濃度と相関の高いことを明らかにするとともに（研究成果・研究）、ホウレンソウの品種および栽培法の違いによる吸収量の差異を明らかにした。また、イムノアッセイによる簡易農薬残留分析の米、果菜類への適用に関して環境保健研究センターと共同研究を行い、その活用法を提示した（研究成果・指導）。

土壌作物栄養研究室

持続的生産管理技術体系の確立を目指し、食の安全・安心対策、土壌・施肥管理技術を中心に取り組んだ。
食の安全・安心対策では、独立行政法人野菜茶業研究所が主査となっている硝酸プロジェクトに参加して、ほうれんそう、キャベツ、レタスの体内硝酸イオン濃度低減化に取り組み、土壌中窒素肥沃度に基づく施肥、有機物利用等によって低減できることを明らかにした。（研究成果・指導、研究）
土壌・施肥管理技術では、高窒素濃度の堆肥を使った減化学肥料栽培の確立に取り組み、水稲及びスイートコーン・キャベツで栽培法を明らかにした。（研究成果・指導）
また、土壌中・作物体中養分含量推定法の高度化、簡略化に取り組み、雨よけホウレンソウ土壌の可給態窒素の推定法、フラットベッドスキャナーを利用した土壌中全炭素・全窒素の簡易推定法、デジタルカメラを利用したりんご

の生育診断法について明らかにした。(以上研究成果・指導)
その他、消費者に栽培土壌の情報を発信する目的で、健康な土の簡易評価法の課題を開始した。

保鮮流通技術研究室

保鮮流通技術研究室では、県産農産物の多面的品質評価技術の開発、青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術の確立、地域特産品の加工技術の開発に取り組んでいる。
県産農産物の多面的品質評価については、キャベツや寒締めホウレンソウに含まれる糖度やビタミンCなどの評価を行い、産地や年次における変動の実態を検討するとともに、示差屈折計や簡易型反射式分光光度計を利用したこれら成分の簡易分析技術の検討を行った。また、雑穀については、ひえやあわ、きび等に含まれる機能性成分の評価を行うとともに、白米に混合する場合のひえの食味評価法の検討を行い、小麦については、タンパク質含有量に影響する土壌要因や栽培法について検討を行った。
青果物の高鮮度貯蔵・輸送技術については、「通いコンテナ利用による青果物輸送の特徴」(指導)、「冷温高湿貯蔵により蜜入りりんごは2カ月間の貯蔵が可能となる」(指導)、「西洋ナシ「ラ・フランス」の追熟法(追補)」(指導)の3課題を研究成果とした。通いコンテナについては、首都圏への長距離輸送の場合、段ボール箱に比較して箱内温度が上昇するが、農産物の品質(外観・内部)には大差ないことを明らかにした。また、通常の冷蔵庫では困難であった蜜入りりんごの長期貯蔵を可能とする技術を開発した。西洋ナシについては、追熟期間を短縮する技術を開発した。
地域特産品の加工技術については、「セルラーゼを利用し搾汁率を高めたりんごジュースの製造法」(普及)、「「小枝柿」の炭酸ガス脱渋技術及び渋戻り抑制技術」(指導)、「はとむぎ新品種「はとゆたか」を原料としたペースト食品の特性」(指導)の3課題を研究成果とした。りんごジュースについては、従来法(36.7%)より廃棄率が 20%以上少ない 13.9%となる製造法を開発した。小枝柿については、「ころ柿」以外の脱渋法を開発し、二次加工への汎用性を広げた。はとむぎについては、栽培される品種が変わってもペーストとしての成分や食味には変化がないことを明らかにした。また、「農業ふれあい公園加工工房」における 40 件(人数　344 人)の研修に対応し、地域特産加工品の開発を支援した。

(5) 病害虫部

病理昆虫研究室

1名欠員、1名長期病休に伴い5名体制で、持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、効率的病害虫防除技術の開発、環境にやさしい病害虫防除技術の開発、農薬使用量を削減した病害虫総合管理技術(IPM)の開発に取り組んだ。
水稲分野では、ばか苗病、苗立枯細菌病及びもみ枯細菌病に効果のある生物農薬トリコデルマ・アトロビリテ水和剤(粉状タイプ)の特性と使用法を示した(研究成果・指導)。
また、ウイン等 MBI－D 剤耐性イネいもち病菌を北日本で初めて確認し、防除対策を示す(研究成果・指導)とともに、水稲採種圃で実施してきた平成 13 年発生のスターナ耐性イネもみ枯細菌病対策が成功したことをとりまとめた(研究成果・指導)。さらに、割れ籾、水田雑草など発生環境に応じた斑点米防止対策技技術をとりまとめた(研究成果・指導)。
果樹分野では、リンゴ炭疽病の発生生態について、病原菌が着果痕で越冬し5～6月に幼果に感染すること(研究成果・指導)、さらに、本病の例年発生園では落花 10～30 日後にアントラコール顆粒水和剤を散布することにより秋期の果実発病を抑制できることを明らかにした(研究成果・普及)。また、果実害虫のモモシンクイガの防除対策として、生物農薬スタイナーネマ・カーポカプサエ剤を 10ａ当たり 2 億 5 千万頭処理すると、羽化成虫数を低減して被害果の発生を抑制できることを明らかにした(研究成果・普及)。
野菜分野では、平成 14 年に発生が確認された難防除病害キュウリホモプシス根腐病に対し、耐病性がある黒種カボチャ台木と土壌消毒を組み合わせた総合的防除効果は高いことを明らかにした(研究成果・指導)。また、親水性のあるクロルピクリンくん蒸剤の新剤型フロー剤はマルチ被覆後にチューブかん水と同様に処理できるため簡便で、防除効果も従来の点注と同等であることを明らかにした(研究成果・指導)
花き分野では、リンドウ新病害としてインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)によるえそ斑紋病の発生を確認した(研究成果・指導)。また、りんどうこぶ症について、節間及び節部こぶの症状進展を明らかにした。また、クロピク等土壌消毒を実施し、継続検討中である。
各作物の病害虫防除試験の結果に基づき、より効果的な防除が行えるよう平成 17 年度病害虫防除基準を改訂した

（研究成果・普及）。また、病害虫防除基準の農薬使用基準および効果適用一覧表の記載について、国が定めた農薬使用基準に適合しているかどうかパソコン上で確認できるシステムを開発した（研究成果・行政）。さらに、登録農薬が極めて少ない地域特産農作物のブルーベリー、なばな等について、登録取得に向けて薬効、薬害等試験を実施した。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定 20 頭を実施し、１日当たり平均増体量（DG）は 1.42kg であり、平成 17 年度現場後代検定開始予定牛 6 頭（選抜率 30%、平均 DG1.46kg）を選抜した。間接検定は「琴川」「辰松」「川風」「角久」「高山」の５種雄牛について終了した。県有優良短角種雄牛「高福」「良川」の人工授精用凍結精液を生産した。

また、日本短角種全個体認証システムを確立するため、子牛全個体を主体に約 1526 頭の血液採取を実施するとともに、飼養農家の同意を得ながら血統、枝肉、DNA 情報の短角牛データベース構築に取り組み、血統、育種価等の情報を地域に提供した。

日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立試験に取り組み､デントコーンサイレージ多給肥育により良質短角牛肉生産ができることを明らかにするとともに、独自の流通評価基準設定のための消費者アンケートを実施した。

養豚では､県内養豚農家を対象としたリサイクル飼料に対する需要等調査や排出業者の現地調査を実施し問題点を明らかにするとともに、未利用資源であるどんぐり給与と放牧により特徴ある特産豚肉としての可能性を見出した。また、環境に優しい飼養技術の確立を図るため酵素添加した低N、低Ｐ給与試験を実施した。

養鶏では、「南部かしわ」や岩手県在来の天然記念物「岩手地鶏」を活用した新特産肉用鶏の雛供給を開始し、その普及推進を図るとともに､リサイクル飼料(せんべい屑)の給与試験を実施し､生産コストの低減を明らかにした。また、初めて岩手地鶏由来の生殖系キメラ１羽の作出を確認した。

家畜飼養研究室

地域資源の高度活用による自給飼料を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため､高位乳生産の飼養管理及び省力管理技術の確立に取り組んだ。

乳用新生子牛の飼養管理に自動哺乳装置を用いた試験では､代用乳の少量多回給与により１日当たり給与量を慣行の４Ｌから８Ｌまで増やしても摂取可能であり､併せて人工乳の摂取量も消化障害を起こすことなく摂取目標と離乳週齢を達成するなど、４Ｌ区及び標準発育値を上回る技術であることを実証した。

離乳直後の乳用雌育成前期牛（２～４ヶ月齢）をペレニアルライグラス草地への集約放牧と併給飼料とを組み合わせた飼養管理では､放牧期間の通算 DG は 0.68kg であり､体高の成績と併せ標準発育値と同等の成績を確保できた。また、放牧開始までに放牧草採食の馴致をすることにより、放牧期の乾物摂取量に占める放牧草からの割合を 50%以上充足できたことで､離乳期以降における若齢牛の集約放牧は良好な発育を確保できる技術であることを明らかにした。

周産期疾病予察では､乾乳移行時の血中アポリポ蛋白質の数値が一定基準以下の場合に発症率との関連が高いことを明らかにし、周産期疾病の前駆状態である脂肪肝のスクーリングに応用可能な技術であることを確認した。

高位乳生産（高泌乳・高蛋白）をねらいとする栄養管理技術では、泌乳牛飼料の主要アミノ酸（リジン、メチオニン)供給量を調整することで､産乳成績や血清成分値に影響なく飼料中の CP 含量を低減させることができた｡更に､コスト面の検討を加えての研究を継続する。

家畜工学研究室

牛の改良と増殖を促進するために胚移植技術､核移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。

胚移植技術では、凍結胚の庭先融解、移植を行う直接移植法の受胎率向上が最重要課題となっている。改善のためエチレングリコールとシュークロースを組み合わせた胚の処理方法を大規模移植試験から実証をはかりマニュアルを作成した。さらに、この技術を活用し推進構想目標の受胎率 60%を達成するため簡易胚移植器を考案し、従来の移植器との比較で大幅な改善効果を得た。移植器は操作性、反復利用にすぐれ経験の浅い技術者にとって特に有効と

考えている。本器は特許出願をはかると共に普及に向けた製品化を検討している。
　胚移植技術を活用した双子生産では、両側子宮角移植及び追い移植法で血液キメラの発生を著しく軽減することを明らかにした。
　短期種雄牛造成技術の確立を目的とした体細胞クローン技術は、胚の栄養膜細胞と生体由来線維芽細胞をドナー細胞とする基礎及び応用化研究に着手した。
　胚の発育ステージ別栄養膜細胞の効率的採取のためヘルニア法の検討及びクローン牛の産肉比較試験を２頭実施した。
　遺伝子解析では、黒毛和種の産子に発生する半致死性遺伝病の内水頭症と遺伝性疾患が疑われる乳頭異状について、原因遺伝子特定のため解析を実施している。内水頭症は、常染色体劣性遺伝病であり、原因領域は３番染色体のセントロメア近くに存在することを世界で初めて明らかにすると共にマーカー診断法を確立し、現在、原因遺伝子特定に向けて研究を継続している。
　また岩手県では黒毛和種産子に乳頭の数、形状等の異状を示す事例が散発し、原因の究明が求められているため家系調査と半きょうだい家系を用いた DNA 解析を行い、牛 17 番染色体と 25 番染色体に強く連鎖する領域を見いだした。

飼料生産研究室

　本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜ふん尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。
　優良草種・品種の選定課題のうち、飼料作物では、国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成系統２系統、畜産草地研究所育成系統１系統、長野県中信農業試験場育成系統１系統、計４系統について検討した結果、乾物収量では標準品種と同程度か少なく、当試験圃で発生の多い黒穂病に対して比較品種と同程度か強い傾向にあった。また、市販とうもろこし品種についても同様な調査を行い、極早生種２種、中生種６種が、耐病性、乾物収量、TDN 収量とも標準品種に比較し有望であり、そのうち「LG3457（ニューデント 100 日）」を県推奨品種候補として成果提案した。H17 年も引き続き調査を行い推奨品種候補を選抜していく予定である。
　H16 年開始した高消化性ソルガム品種特性比較試験では BMR 遺伝子を有する８品種を対象に生育特性の把握を行った。今後 18 年まで継続調査し本県の地域特性に適合する高消化性ソルガム品種を明らかにしていくこととしている。
　牧草部門では、中標高地の採草用牧草の草種組み合わせを検討し、基幹草種（OG、TY）に組み合わせる草種としてイネ科牧草ではペレニアルライグラスが優れていること、マメ科牧草ではシロクローバーの永続性が優れていたことから、基幹草種３草種の組み合わせについて成果としたほか、イネホールクロップサイレージの品質保持技術として乳酸菌と尿素の効果を明らかにし同様に成果提案とした。
　また、細断型ロールベーラによる収穫作業については、H15 年まで実施した基本性能調査結果をもとに、H16 年に更に効率的なハンドリング手法について検討し、自作可能な改良ハンドラ（アタッチ）を開発したうえ、その作業能率改善効果を明らかにした。結果は試験研究会議に成果として提案した。
　家畜ふん尿処理関係では、シートを用い切り返しなしでたい肥化を行う場合での良好な初期温度を確保する技術として、原料たい肥水分を 70%以下にするだけでなく仮比重を 0.43 以下にすること必要があること、また原料たい肥の仮比重調整には廃サーレージ及び乾草の利用も有効であることを明らかにし簡易なたい肥化技術として成果提案した。

外山畜産研究室

　中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の開発に取り組んでいる。
　定時人工授精技術及び簡易胚移植技術では、放牧牛の繁殖管理を効率的に行うため Ovsynch 法への hCG の応用は有効な排卵同期化技術であることを明らかにした。人工哺育子牛の損耗防止技術では、寒冷環境下は保温環境下に比べ、１～２週齢時に好中球数、WC１+細胞数及び ConA に対するリンパ球幼若化反応が低い傾向を示し、少なくとも生後２週間は保温が必要と示唆された。肥育素牛に 6～10 ヶ月齢の間、グラスサイレージと濃厚飼料の TMR を給与した結果、粗濃比(乾物中)を２：８から４：６に高めても DG0.9kg 以上の発育が得られた。
　カキ殻の有効活用策として、草地の土壌改良資材及び汚水の浄化処理効果について検討した結果、粗砕カキ殻散布作業には堆肥散布機が適当で、散布幅は回り散布、往復散布ともに 270cm が最適であった。カキ殻充填水路と人工湿地を１つのシステムとしたパドック排水の浄化処理施設において、汚濁物質の除去効果が認められた。
　減化学肥料化を目指した牧草地における発酵鶏糞ペレットの施肥基準策定に取り組んだ結果、標準量ペレット

(12kgN/10a)の春施用は、化成肥料と同等の収量が確保できた。
日本短角種 DM 牛の生殖・発育特性について検討した結果、DM ヘテロどうしの交配により、11 頭の繁殖雌牛から 9 頭の DM 牛が生産された。また、放牧育成した DM 牛５頭の発育は通常牛と同等かやや劣る傾向があった。DM 種雄牛の精液性状は通常牛と比べ大きな変化がないことを明らかにした。
耕作放棄地の有効利用を図るために、狭小草地に適した放牧手法を検討した結果、定置放牧条件下で年間乾物収量が 500kg/10a の放牧地での適正放牧頭数は約２頭(500kg 体重換算)/ha と推定された。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策事業」の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 15 頭を選抜するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子 3 頭計 18 頭の直接検定を実施し年度内に 11 頭終了、残り 7 頭については平成 17 年 6 月までに終了する。全頭終了後検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として 6 頭を選抜する。また、平成 12 年度の直接検定により選抜された「第 3 八雲」「磐安則」「信平茂」「寿照安」「房平茂」「安輝偉」の 6 種雄牛について間接検定を実施し下記の成績が得られた。
ア　1 日当たり増体量（kg）
磐安則（1.06）＞第 3 八雲（0.97）＝房平茂（0.97）＝安輝偉（0.97）＞信平茂（0.96）＞寿照安（0.92）
イ　ロース芯面積（cm^2）
安輝偉（55）＞磐安則（50）＞第 3 八雲（48）＝房平茂（48）＞信平茂（46）＝寿照安（46）
ウ　脂肪交雑（BMS）
房平茂（3.5）＞第 3 八雲（3.4）＞磐安則（3.3）＝安輝偉（3.3）＞信平茂（2.6）＞寿照安（2.5）
平成 16 年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「房平茂」は脂肪交雑、バラの厚さ及び枝肉重量の成績が全国平均を上回ったことから、県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。
平成 15 年度に現場後代検定を開始した「山重鶴」「城乃神」「菊福秀」の 3 種雄牛については、平成 17 年 2 月までに調査がほぼ終了し、その枝肉格付成績から肉質等級 4・5 率が 92.8%（14 頭中 13 頭、のこり 1 頭）と優秀な成績であった「菊福秀」が県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した

(7) 県北農業研究所

営農技術研究室

県北地域の特色を生かした環境保全型農業技術の開発､野菜等の省力機械化技術の確立及び地域資源高付加価値化のための生産技術の開発に関する試験研究に取り組んだ。
環境保全型農業技術に関しては、化学合成農薬低減技術の分野では、「レタスにおけるナモグリバエの加害生態と防除法」（試験研究成果普及）を取りまとめ、重点防除時期と防除方法を明らかにした。畜産由来有機物活用の分野では、奥中山地域における液状コンポスト調製利用システム確立試験を実施し､「液状コンポストの利用法（①成分特性、②成分含有率の簡易推定法、③牧草及び飼料用トウモロコシに対する利用)」（試験研究成果指導）を明らかにした。
省力機械化技術に関しては、大豆・小麦の２年３作等を可能とする立毛間播種栽培技術の開発に取り組み、「県北地域における大豆・小麦立毛間播種２年３作栽培技術」（試験研究成果指導）として体系化した。また、ほうれんそうの機械収穫に適する形態や移植栽培の機械収穫不適応性を明らかにした。
地域資源高付加価値化のための生産技術に関しては､高冷地レタスの高位安定生産の阻害要因である腐敗性病害の防除法確立の基礎的知見となる「レタス腐敗性病害の発生実態と気象要因」を明らかにした。また、雑穀の省力・安定栽培技術や高付加価値栽培技術の開発に着手し、平成 21 年度までには除草・収穫技術や無農薬・無化学肥料栽培技術を確立する予定である。

産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。
野菜では、優良品種選定試験としてキャベツ・だいこんの有望視される品種の特性調査を実施した。また、県北地域の主要品目であるほうれそうについては､薬剤によらない土壌消毒法としてカラシナによる萎凋病軽減技術の開発や、近年消費者から高い評価を受けている寒締め栽培の技術確立に取り組んだ。後者は（独）東北農研等との共同研究である。なお、施肥合試験で実施した硫酸カルシウムの肥効試験については、キャベツの心腐れ症状が顕著に軽減されたことから､「硫酸カルシウム施用によるキャベツ心腐れ症状（カルシウム欠乏）の軽減効果」として研究成果

（研究区分）にまとめた。さらに、所重点課題である「高冷地レタスの高位安定生産技術の確立」については、優良品種の選定や腐敗性病害軽減のための耕種的防除対策について場内及び現地試験（一戸町奥中山）において重点的に取り組んだほか、地元レタス腐敗防止対策委員会と連携し、レタスセミナーや腐敗防止技術対策検討会を開催し、試験結果や技術情報の早期伝達を図った。

花きでは、中山間地域に適した宿根草・花木の栽培技術の確立のため、新たに２つの新規課題を起こし、アルケミラやエキノプス等の有望宿根草の夏期株落ち対策や鮮度保持技術、サンゴミズキやニシキギ等の自生枝物花木類の増殖法や着色促進技術の確立に取り組んだ。また、花壇苗は地域資源を活用した鉢上げ用土の開発や間伐材チップによる鉢上げポットの実用性を検討し、後者について「間伐材利用園芸用ポット（試作品）の特徴と鉢花及び花壇苗生産における利用特性」として研究成果（研究区分）にまとめた。

やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通畑作物（小麦、大豆）、雑穀の品種選定や栽培法及び葉たばこの環境保全型栽培技術に関する研究を実施している。

水稲では、早生地帯の作柄安定化、産米評価の向上をはかるため、耐冷性が強く、良質・良食味な品種の選定に引続き取組んでいる。また、品質・食味の高位安定化を図るため、米のタンパク含有率と生育・栄養条件との関係を検討し、品質・食味向上にむけた栄養診断技術確立試験に着手した。

畑作物では、製パン特性に優れた小麦品種「ゆきちから」の目標生育量と栽培法を明らかにし、普及に移した。また、味噌、納豆、煮豆向け極早生大豆品種「ユキホマレ」を優良品種として選定し、普及に移した。

雑穀では、新規課題「いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産技術の確立」により、岩手在来系統の特性評価と品質優良系統の選定、オリジナル雑穀品種の開発、雑穀の省力・安定多収栽培技術確立試験に着手した。在来ひえ系統の中から、アミロース含量が低く、冷めても硬くなりにくく、食味評価の高い「もじゃっぺ」を優良品種として選定し、普及に移した。

葉たばこでは、環境にやさしい資材として注目されている生分解マルチの実用性を検討するとともに、分解を促進するための後処理技術についても試験を実施し、試験データをもとにＪＴ盛岡葉たばこ技術センターが中心となり、栽培技術マニュアルを作成中である。

4　平成 16 年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

推進構想分野／担当部署	総課題数	A 水稲	B 畑作物	C 果樹	D 野菜	E 花き	F 酪農	G 肉畜	H 草地飼料	I 作物バイテク	J 家畜バイテク	K 環境保全	L 土壌作物	M 病害虫	N 農業農村	O 生産システム	P 農村整備	Q 水田農業	S やませ利用	U 有機農業	V 保鮮流通	W 農産物加工	X 情報利用	Y 食の安全安心
企画経営情報部	19	2		1	3		1	2							4	1		1					3	1
農業経営研究室	19	2		1	3		1	2							4	1		1					3	1
農産部	88	59	2			2				13			3			2	5						2	
水田作研究室	21	18											2										1	
水稲育種研究室	38	37	1																					
応用生物工学研究室	16	1				2				13														
生産工学研究室	13	3	1										1			2	5						1	
園芸畑作部	110		16	38	16	23							11	2									4	
果樹研究室	42			38									2	1									1	
野菜畑作研究室	35		16		12								5	1									1	
花き研究室	20					19																	1	
南部園芸研究室	13				4	4							4										1	
生産環境部	60	4		1	5	3						5	17	1		1				3	4	7	3	6
環境保全研究室	16											5	2	1						3			2	3
土壌作物栄養研究室	29	4		1	2	3							14			1							1	3
保鮮流通技術研究室	15				3								1								4	7		
病害虫部	24		1			1								20									1	1
病理昆虫研究室	24		1			1								20									1	1
畜産研究所	56	1					13	17	12		5	3											4	
家畜育種研究室	10							8			1												1	
家畜飼養研究室	10						9																1	
家畜工学研究室	6							1			4													
飼料生産研究室	17	1					4		9			2											1	
外山畜産研究室	9							4	3			1											1	
種山畜産研究室	4							4																
県北農業研究所	62	8	11		10	6						3	12	3		4			1				4	
営農技術研究室	21		2		2							2	8	3		2							2	
産地育成研究室	21				8	6							4			1			1				1	
やませ利用研究室	20	8	9									1				1							1	
総　　計	418	74	30	40	34	35	14	19	12	13	5	11	43	26	4	8	5	1	1	3	4	7	21	8

(2) 試験研究課題一覧

凡例

主査研究室	：小課題の主査研究室
実施区分	：継；継続課題、終；終了課題、新；新規課題、繰上；繰上終了、過；過年度終了、未；未着手
推進構想	：推進構想分野の中課題コード（小課題分のみ記載）
連番	：小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に（　）表記
課題名	：小課題は太字表示、細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
開始・終了年	：課題の開始年度、終了年度。（平成→H表記）
担当研究室	：小課題は主査研究室名、細目課題はそれぞれの担当研究室名 （同一課題を複数研究室で実施している場合には、複数行による表記）
予　　算	：国庫研究；国庫補助研究、国庫委託：国庫(独法)委託事業、民間委託；民間委託事業、 令達；令達予算研究、県単研究；県単研究予算、県単採種；主要農作物採種管理費
実施No	：予算配分されている実施課題の連番。（※細目課題をもつ上位課題は実施課題にはならない）

（主査研究室＞実施区分＞主となる推進構想　順）

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	（課題番号）課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
農業経営	新	N-1-2-3	1	**(H16-03)大規模農経営体（メガファーム）の成立条件の解明[H16～H18]**	**1/3**	**農業経営**	**新**		
				(1000)　(1)大規模農経営体（メガファーム）における経営管理方策の解明[H16～H18]	1/3	農業経営	新	県単研究	1
				(2000)　(2)大規模農経営体における高位乳生産に向けた飼養管理技術要因の解明[H16～H18]	1/3	家畜飼養	新	県単研究	2
		Q-3-2-2	2	**(H16-01)水田農業改革における集団的営農システムの実践条件の解明[H16～H17]**	**1/2**	**農業経営**	**新**	**県単研究**	3
		X-3-1-2	3	**(H16-02)経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16～H18]**	**1/3**	**農業経営**	**新**		
				(1000)　(1)生産技術体系データベースの構築[H16～H17]	1/2	農業経営	新	県単研究	4
				〃	1/2	水田作	新	県単研究	5
				〃	1/2	生産工学	新	県単研究	6
				〃	1/2	果樹	新	県単研究	7
				〃	1/2	野菜畑作	新	県単研究	8
				〃	1/2	花き	新	県単研究	9
				〃	1/2	南部園芸	新	県単研究	10
				〃	1/2	環境保全	新	県単研究	11
				〃	1/2	土壌作物栄養	新	県単研究	12
				〃	1/2	病理昆虫	新	県単研究	13
				〃	1/2	家畜育種	新	県単研究	14
				〃	1/2	家畜飼養	新	県単研究	15
				〃	1/2	飼料生産	新	県単研究	16
				〃	1/2	外山畜産	新	県単研究	17
				〃	1/2	営農技術	新	県単研究	18
				〃	1/2	産地育成	新	県単研究	19
				〃	1/2	やませ利用	新	県単研究	20
				(2000)　(2)ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発[H16～H18]	1/3	農業経営	新	県単研究	21
				〃	1/3	農業経営	新	国庫委託	22
	継	D-1-1-2	4	**(H15-01)果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証[H15～H17]**	**2/3**	**農業経営**	**継**		
				(1000)果菜作経営における専作化のための課題整理[H15～H15]	-	農業経営	過		
				(2000)果菜類栽培における省力技術の体系化[H15～H17→H15]	-	野菜畑作	過		
				(3000)果菜作専作経営に向けた規模拡大・農業労働力の確保利用調整方策[H16～H17]	-	農業経営	-		
				(4000)果菜類省力技術の体系化総合実証[H16～H17]	1/2	農業経営	新	県単研究	23
				〃	1/2	野菜畑作	新	県単研究	24
		D-1-1-4	5	**(H15-37)（夏秋期生産を目指したイチゴの）超促成・越年株型経営モデル作成[H15～H19]**	**2/5**	**農業経営**	**継**	**国庫委託**	25
		N-5-1-0	6	**(428)農産物の市場動向分析[H13～H17]**	**4/5**	**農業経営**	**継**	**県単研究**	26
	終	N-5-5-3	7	**(H15-03)食品産業との連携による農産物加工品の商品化条件の解明[H15～H18→H16]**	**-**	**農業経営**	**終(繰上)**		
				〃	**-**	**保鮮流通技術**	**終(繰上)**		

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
水田作	新	A-3-2-0	8	**(H16-59)直播栽培による収量・品質の安定化と冷害危険期分散の有効性[H16～H18]**	**1/3**	**水田作**	**新**	**国庫委託**	27
		A-3-2-1	9	**(H16-06)SU系除草剤抵抗性雑草の発生生態と防除技術[H16～H18]**	**1/3**	**水田作**	**新**	**県単研究**	28
		A-4-1-2	10	**(H16-08)優良種子生産のための双胚米の発生要因の解明[H16～H18→H16]**	**1/1**	**水田作**	**新・終(繰上)**		
				(1000)　双胚米発生機構の解明（遺伝様式の解明）[H16～H18→H16]	1/1	水稲育種	新・終(繰上)	県単研究	29
				(2000)　双胚米発生機構の解明（環境要因の影響）[H16～H18→H16]	1/1	水田作	新・終(繰上)	県単研究	30
				(3000)　双胚米除去技術の確立[H16～H18]	-	水田作	-		
		A-4-2-2	11	**(H16-07)いわて純情米品質・食味向上栄養診断技術の確立[H16～H18]**	**1/3**	**水田作**	**新**		
				(1000)　(1)米のタンパク含有率予測技術の確立[H16～H18]	1/3	水田作	新	県単研究	31
				(2000)　(2)米の品質向上に向けた栄養診断技術の確立[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	県単研究	32
				(3000)　【タイトル変更予定】(2)米の品質向上に向けた栄養診断技術の確立[H16～H18]	1/3	やませ利用	新	県単研究	33
				(4000)　(3)米タンパク含有率をベースとした品質・食味改善手法の確立[H18～H18]	-/1	水田作	未		
	継	A-2-6-1	12	**(803)水稲奨励品種決定調査[H14～H22]**	**3/9**	**水田作**	**継**		
				(1000)予備調査[H14～H22]	3/9	水田作	継		
				(1100)中晩生系統[H14～H22]	3/9	水田作	継	県単採種	34
				(1200)早生系統[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	県単採種	35
				(2000)本調査[H14～H22]	3/9	水田作	継		
				(2100)中晩生系統[H14～H22]	3/9	水田作	継	県単採種	36
				(2200)早生系統[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	県単採種	37
				(3000)現地調査[H14～H22]	3/9	水田作	継	県単採種	38
		A-3-1-4	13	**(H15-04)水稲湛水直播の安定栽培技術の確立と実証[H15～H17]**	**2/3**	**水田作**	**継**		
				(1000)直播水稲の生育安定化及び収量向上技術[H15～H17]	2/3	水田作	継	県単研究	39
				〃	2/3	土壌作物栄養	継	県単研究	40
				(2000)直播栽培の作業性向上技術[H15～H17]	2/3	生産工学	継	県単研究	41
				(3000)麦豆等復元田における直播栽培技術[H15～H15]	-	水田作	過		
				〃	-	生産工学	過		
				〃	-	土壌作物栄養	過		
				(4000)直播導入農家の経営評価と経営発展モデルの策定[H15～H17]	2/3	農業経営	継	県単研究	42
		A-3-2-1	14	**(807)水田雑草の効果的防除技術の開発[H14～H22]**	**3/9**	**水田作**	**継**		
				(1000)水稲作用除草剤第２次適用性試験[H14～H22]	3/9	水田作	継		
				(1100)県央・県南地域[H14～H22]	3/9	水田作	継	民間委託	43
				(1200)県北地域[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	民間委託	44
				(2000)RCヘリを利用した除草剤の散布技術[H14～H14]	-	水田作	過		
				(2100)KUH-003K-0.25kg粒剤[H14～H14]	-	水田作	過		
		A-4-1-2	15	**(58)有望新系統の栽培特性と産米の高品質安定栽培技術の確立[H14～H18]**	**3/5**	**水田作**	**継**		
				(1000)水稲粳有望新系統「岩南25号」の栽培特性[H14～H14]	-	水田作	過		
				(2000)水稲粳有望新系統「岩手60号」の栽培特性[H14～H15]	-	水田作	過		
				(3000)水稲糯新品種「もち美人」(岩南糯19号)の栽培法[H14～H15]	-	水田作	過		
				(4000)水稲粳有望新系統「岩手68号」の栽培特性[H14～H18→H16]	3/3	水田作	終(繰上)	県単研究	45
				(5000)水稲糯新品種「岩手68号」の栽培法[H17～H18]	-/2	水田作	未		
		A-4-2-1	16	**(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析[H14～H22]**	**3/9**	**水田作**	**継**		
				(1000)水稲作況調査[H14～H22]	3/9	水田作	継		
				(1100)県央・県南地域[H14～H22]	3/9	水田作	継	県単研究	46
				(1200)県北地域[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	県単研究	47
				(2000)水稲優良品種の気象反応試験[H14～H22]	3/9	水田作	継		
				(2100)県央・県南地域[H14～H22]	3/9	水田作	継	県単研究	48
				(2200)県北地域[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	県単研究	49
				(3000)水稲作柄成立要因の解析[H14～H22]	3/9	水田作	継	県単研究	50
		A-5-3-2	17	**(740)寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系の確立[H13～H17]**	**4/5**	**水田作**	**継**		
				(1000)省力・低コスト生産技術体系の実証[H13～H17]	4/5	水田作	継	国庫委託	51
				(2000)ミニマム防除体系の確立[H13～H14]	-	水田作	過		
				(3000)良質イネホールクロップサイレージ調整技術の確立[H13～H17]	4/5	飼料生産	継	国庫委託	52
		A-6-0-0	18	**(61)水稲原々種生産[S29～H22]**	**51/57**	**水田作**	**継**	**県単採種**	53
			19	**(62)水稲原種生産[S29～H22]**	**51/57**	**水田作**	**継**	**県単採種**	54
	終	A-4-1-3	20	**(806)県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証[H14～H22→H16]**	**3/3**	**水田作**	**終(繰上)**	**民間委託**	55

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
水稲育種	**継**	A-1-1-2	21	**(737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13～H17/令達]**	**4/5**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)分子マーカーを用いた選抜技術の検討[H13～H17]	4/5	水稲育種	継	令達	56
				(2000)水稲重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索[H16～H17]	1/2	水稲育種	新	令達	57
				〃	1/2	応用生物工学	新	令達	58
		A-1-2-1	22	**(5)水稲新規需要等対応品種の育成[H1～H22]**	**16/22**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)水稲新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査[H1～H22]	16/22	水稲育種	継	令達	59
			23	**(18)水稲品種特性調査[H7～H22]**	**10/16**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)東北地域の水稲奨励品種比較試験[H7～H22]	10/16	水稲育種	継	令達	60
				(2000)水稲品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成[S59～H22]	21/27	水稲育種	継	令達	61
				(3000)イネ・ゲノムシミュレータの開発[H13～H15]	-	水稲育種	過		
		A-1-2-2	24	**(6)水稲高度耐冷性集積系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**62**
			25	**(7)水稲高度耐病性集積系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**63**
		A-2-1-0	26	**(19)水稲品種育成交配試験[S59～H22]**	**21/27**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)水稲交配試験[S59～H22]	21/27	水稲育種	継	令達	64
				(2000)水稲初期世代養成試験[S59～H22]	21/27	水稲育種	継	令達	65
				(3000)水稲世代促進試験[S59～H22]	21/27	水稲育種	継	令達	66
				(4000)水稲個体選抜試験[S62～H22]	18/24	水稲育種	継	令達	67
				(5000)水稲単独系統選抜試験[S58～H22]	22/28	水稲育種	継	令達	68
		A-2-1-1	27	**(20)稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成[H1～H22]**	**16/22**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定[H1～H22]	16/22	水稲育種	継	令達	69
				(2000)葉いもち圃場抵抗性検定調査[S48～H22]	32/38	水稲育種	継	令達	70
				(3000)穂いもち圃場抵抗性検定調査[S62～H22]	18/24	水稲育種	継	令達	71
		A-2-1-5	28	**(15)水稲生産力検定試験[S58～H22]**	**22/28**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)生産力検定予備調査[S58～H22]	22/28	水稲育種	継	令達	72
				(2000)生産力検定予備試験系統群[S58～H22]	22/28	水稲育種	継	令達	73
				(3000)生産力検定本試験[S58～H22]	22/28	水稲育種	継	令達	74
				(3100)早生品種[H9～H22]	8/14	やませ利用	継	令達	75
				(4000)生産力検定本試験系統群[S58～H22]	22/28	水稲育種	継	令達	76
			29	**(16)水稲系統適応性検定試験[S39～H22]**	**41/47**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)水稲系統適応性検定試験（国公立育成分）[S39～H22]	41/47	水稲育種	継	国庫委託	77
				(2000)稲民間育成品種評価試験[H13～H22]	-	水稲育種	-		
			30	**(21)極良食味水稲品種・系統の育成[S60～H22]**	**20/26**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)食味官能調査[S60～H22]	20/26	水稲育種	継	令達	78
				(2000)食味成分調査[H2～H22]	15/21	水稲育種	継	令達	79
				(3000)炊飯米外部構造調査[H13～H22]	4/10	水稲育種	継	令達	80
		A-2-2-1	31	**(22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)高度耐冷性を有する系統の探索[H2～H22]	15/21	水稲育種	継	令達	81
				(2000)障害型耐冷性検定調査[S59～H22]	21/27	水稲育種	継	令達	82
			32	**(23)不良環境地帯向け水稲品種の育成（現地試験）[S59～H22]**	**21/27**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**83**
			33	**(24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験[S52～H22]**	**28/34**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)中・晩生水稲系統[S52～H22]	28/34	水稲育種	継	令達	84
				(2000)早生水稲系統[H9～H22]	8/14	やませ利用	継	令達	85
		A-2-2-2	34	**(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**86**
		A-2-2-3	35	**(26)難穂発芽性水稲品種・系統の育成[S62～H22]**	**18/24**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)穂発芽性検定調査[S62～H22]	18/24	水稲育種	継	令達	87
		A-2-3-0	36	**(27)直播適応性水稲品種・系統の育成[H3～H22]**	**14/20**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)直播関連適性検定法の検討[H13～H15]	-	水稲育種	過		
				(2000)直播生産力検定試験[H3～H22]	14/20	水稲育種	継	令達	88
				(3000)新技術による直播関連形質の選抜技術の検討［H18～H22]	-/5	水稲育種	未		
		A-2-4-1	37	**(28)超多収水稲品種・系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**		
				(1000)育成系統の施肥反応試験[H2～H22]	15/21	水稲育種	継	令達	89
		A-2-4-2	38	**(29)醸造用水稲品種・系統の育成[S63～H22]**	**17/23**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**90**
			39	**(30)醸造用水稲品種・系統の加工適性試験[H8～H22]**	**9/15**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**91**
		A-2-4-3	40	**(31)水稲糯品種・系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**92**
		A-2-4-4	41	**(32)低アミロース水稲品種・系統の育成[H2～H22]**	**15/21**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**93**
			42	**(860)採種[S58～H22]**	**22/28**	**水稲育種**	**継**	**令達**	**94**

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号）課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
応用生物工学	新	I-3-1-1	43	(H16-04)いもち病真性抵抗性遺伝子に関連したＤＮＡマーカーの探索とその実用化[H16～H18]	1/3	応用生物工学	新	県単研究	95
		I-3-1-2	44	(H16-05)「二子いも」高付加価値生産に向けた培養苗生産技術開発[H16～H18]	1/3	応用生物工学	新	県単研究	96
	継	I-2-1-1	45	(812)りんどうの組織培養による種間雑種等の作出法[H14～H18]	3/5	応用生物工学	継	県単研究	97
		I-2-1-2	46	(810)りんどうＦ１優良個体の大量増殖技術開発　　[H14～H18]	3/5	応用生物工学	継	県単研究	98
			47	(814)えぞりんどうの組織培養における維持、増殖システムの確立[H14～H18]	3/5	応用生物工学	継	県単研究	99
		I-3-1-1	48	(811)りんどうの突然変異体の作出法[H14～H18]	3/5	応用生物工学	継	県単研究	100
	終	I-2-1-1	49	(H15-06)玄米、白米などを材料としたDNAマーカー利用による水稲品種識別[H15～H16]	2/2	応用生物工学	終	県単研究	101
		I-2-2-2	50	(813)スターチスの低コスト培養システムの確立[H14～H16]	3/3	応用生物工学	終	県単研究	102
		I-3-1-1	51	(H15-08)りんご有望台木の再分化技術[H15～H17→H16]	2/2	応用生物工学	終(繰上)	県単研究	103
		I-3-2-3	52	(818)各種病原の検出・診断技術[H14～H16]	3/3	応用生物工学	終	県単研究	104
		I-3-2-4	53	(293)小ぎくのウィルスフリー化技術の確立[H12～H16]	5/5	応用生物工学	終	県単研究	105
			54	(808)りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立[H14～H16]	3/3	応用生物工学	終	県単研究	106
			55	(815)りんどうのウィルスフリー化技術の確立[H14～H16]	3/3	応用生物工学	終	県単研究	107
生産工学	新	P-2-1-2	56	(H16-58)ほ場整備直後の明きょ掘削効果[H16～H18]	1/3	生産工学	新	令達	108
	継	A-3-1-1	57	(H15-05)ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証[H15～H17]	2/3	生産工学	継		
				(1000)ロングマット水耕苗の低コスト効率的育苗・移植技術の開発[H15～H17]	2/3	水田作	継	県単研究	109
				〃	2/3	生産工学	継	県単研究	110
				〃	2/3	土壌作物栄養	継	県単研究	111
				(2000)ロングマット水耕苗移植栽培技術の導入実証[H15～H17]	2/3	農業経営	継	県単研究	112
				〃	-	水田作		-	
				〃	2/3	生産工学	継	県単研究	113
				〃	-	土壌作物栄養		-	
	終	B-4-2-1	58	(739)寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発[H13～H16]	4/4	生産工学	終		
				(1000)麦・大豆立毛間播種体系の導入条件と展開方策[H13～H15]	3/3	農業経営	過		
				(1100)麦・大豆立毛間播種栽培の定着条件の解明[H13～H15]	3/3	農業経営	過		
				(2000)麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発[H13～H17→H16]	4/4	生産工学	終(繰上)		
				(2100)立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立[H13～H17→H16]	4/4	生産工学	終(繰上)		
				(2110)県央・県南地域[H13～H17→H16]	4/4	生産工学	終(繰上)	国庫助成	114
				(2120)県北地域[H13～H17→H16]	4/4	やませ利用	終(繰上)	国庫助成	115
				(2200)麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術の確立[H13～H17→H16]	4/4	野菜畑作	終(繰上)		
				(2210)県央・県南地域[H13～H17→H16]	4/4	野菜畑作	終(繰上)	国庫助成	116
				(2220)県北地域[H13～H17→H16]	4/4	営農技術	終(繰上)	国庫助成	117
				(3000)麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証[H13～H17→H16]	4/4	生産工学	終(繰上)	国庫助成	118
				(3100)麦・大豆立毛間播種に対応した肥培管理技術の確立[H13～H17→H16]	4/4	土壌作物栄養	終(繰上)	国庫助成	119
				(3200)組み立て技術の経営・経済的評価[H16～H16]	1/1	農業経営	終	国庫助成	120
				(3300)麦・大豆立毛間播種栽培マニュアルの作成[H16～H16]	1/1	生産工学	終	国庫助成	121
		P-1-1-1	59	(H15-07)農作業事故防止のための基盤整備手法[H15～H16]	2/3	生産工学	終	県単研究	122
		P-2-2-1	60	(895)輪換畑ほ場における暗渠排水管を利用した地下かんがい及び排水技術の確立[H14～H16]	3/3	生産工学	終	令達	123
		P-3-1-1	61	(800)環境に配慮した農村整備手法の確立[H14～H16]	3/3	生産工学	終	県単研究	124
			62	(852)寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証[H14～H16]	3/4	生産工学	終	令達	125

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	（課題番号）課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
果樹	新	C-1-1-3	63	(H16-09)クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利用法の確立[H16～H22]	1/7	果樹	新		
				(1000)　(1)受粉専用品種の選抜[H16～H22]	1/7	果樹	新	県単研究	126
				(2000)　(2)受粉専用品種利用法の確立[H16～H22]	1/7	果樹	新	県単研究	127
		C-2-1-2	64	(H16-10)果樹園におけるリンゴ剪定枝等利用技術の確立[H16～H22]	1/7	果樹	新		
				(1000)　(1)果樹園における剪定枝等チップのマルチ利用技術の確立[H16～H22]	1/7	果樹	新	県単研究	128
				(2000)　(2)ブルーベリー植栽における剪定枝チップ利用土壌改良技術の確立[H16～H22]	1/7	果樹	新	県単研究	129
				(3000)　(3)せん定枝粉砕搬出機の開発・利用に関する調査[H16～H19]	1/4	果樹	新	国庫委託	130
	継	C-1-1-1	65	(839)りんご新わい性台木「青台３」の特性解明[H14～H22]	3/9	果樹	継	県単研究	131
		C-1-1-3	66	(708)山ぶどう結実安定技術の確立[H13～H22]	4/10	果樹	継	県単研究	132
			67	(709)ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討[H13～H22]	4/10	果樹	継	県単研究	133
		C-1-2-1	68	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1100)第９回系統適応性検定試験[H14～H15]	-	果樹	過		
				(1200)第10回系統適応性検定試験[H14～H22]	3/9	果樹	継	国庫委託	134
				(1300)第11回系統適応性検定試験[H16～H22]	1/7	果樹	新	国庫委託	135
				(2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜　(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	136
				(3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	137
			69	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1000)果樹園用除草剤の効果的使用法[H14～H22]	3/9	果樹	継	民間委託	138
				(2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法[H14～H22]	3/9	果樹	継	民間委託	139
				(3000)野菜の除草剤実用化試験[H15～H22]	2/8	野菜畑作	終	民間委託	140
				(4000)花きの除草剤実用化試験[H16～H22]	1/7	花き	新		
				(4100)りんどう除草剤実用化試験[H16～H22]	1/7	花き	新	県単研究	141
				(4200)小ぎく除草剤実用化試験[H16～H22]	1/7	花き	新	民間委託	142
				(5000)【畜産研究所担当分】[H16～H22]	1/7	飼料生産	新		
				(5100)【飼料生産研究室担当分】[H16～H22]	1/7	飼料生産	新		
				(5110)除草剤試験[H16～H22]	1/7	飼料生産	新	民間委託	143
				(6000)【県北農業研究所担当分】[H16～H22]	1/7	産地育成	新		
				(6100)【産地育成研究室担当分】[H16～H22]	1/7	産地育成	新		
				(6110)植調剤試験[H16～H22]	1/7	産地育成	新	民間委託	144
			70	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	145
		C-2-1-1	71	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1000)りんごの生育・生態の把握[H14～22]	3/9	果樹	継	県単研究	146
				(2000)ぶどうの生育・生態の把握[H14～H22]	3/9	果樹	継	県単研究	147
				(3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握[H14～H22]	3/9	果樹	継	県単研究	148
			72	(H15-38)新品種などの安定生産技術の確立[H15～H22]	2/8	果樹	継		
				(1000)「岩手６号」の安定生産技術の確立[H15～H22]	2/8	果樹	継	県単研究	149
				(2000)「シナノゴールド」の安定生産技術の確立［H17～H22]	-/6	果樹	未		
		C-4-1-1	73	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1000)国育成系統適応性(盛岡58～65号)[H14～H22]	3/9	果樹	継	国庫委託	150
				(2000)国内外導入品種の選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	151
				(3000)いわて特産中晩生種の交配育成[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	152
		C-4-3-1	74	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1000)国内外導入品種の選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	153
		C-4-4-1	75	(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継		
				(1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継	令達	154
				(2000)ブルーベリーの優良品種の選抜[H14～H22]	3/9	果樹	継	県単研究	155
				(3000)多機能性新規ベリーの安定生産技術の確立[H16～H18]	1/3	果樹	継	国庫委託	156
	終	C-2-1-1	76	(128)需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終		
				(1000)食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終		
				(1100)食味本位リンゴの樹体構成法及び光センター等を利用した均質化栽培法の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終		
				(1110)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終		

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号）課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
果樹				(1111)樹勢要因と果実品質の関係解明[H12～H13]	-	果樹	過		
				(1112)食味本位リンゴの適正着果量の解明[H12～H13]	-	果樹	過		
				(1113)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立[H13～H16]	4/4	果樹	終	国庫助成	157
				(1120)良食味・均質化のための樹体構成法[H12～H13]	-	果樹	過		
				(1121)樹体内果実品質の分布把握[H12～H13]	-	果樹	過		
				(1122)受光条件と果実品質の関係解明[H12～H14]	-	果樹	過		
				(1123)葉面積指数と果実品質の関係解明[H12～H14]	-	果樹	過		
				(1124)適正な側枝配置法の解明[H14～H16]	3/3	果樹	終	国庫助成	158
				(1130)各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終		
				(1131)光センサーによる内部品質評価法の検討[H12～H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	159
				(1132)各種資材を利用した内部品質向上・均質化技術の検討[H12～H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	160
				(2000)食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立[H12～H14]	-	果樹	過		
				(2100)新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の確立[H12～H14]	-	果樹	過		
				(2110)「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」などへの新摘花・摘果剤利用技術の確立[H12～H14]	-	果樹	過		
				(2111)新規摘花剤の効果確認[H12～H14]	-	果樹	過		
				(2112)‘さんさ’‘ふじ’などへの品種適応性の検討[H12～H14]	-	果樹	過		
				(2113)摘果剤の効果安定法[H12～H14]	-	果樹	過		
				(2114)体系処理法の開発と省力効果の確認[H13～H14]	-	果樹	過		
				(2200)新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理の大幅削減技術の開発[H12～H16]	5/5	果樹	終		
				(2210)「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」など新摘葉剤利用技術の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終		
				(2211)摘葉剤の実用性及び効果安定法の検討[H12～H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	161
				(2212)摘葉剤処理が樹体生理に及ぼす影響[H12～H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	162
				(2213)着色評価のための非破壊センシング利用技術の開発[H12～H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	163
				(2220)着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立[H12～H16]	5/5	果樹	終	国庫助成	164
				(3000)食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立[H12～H16]	5/5	保鮮流通技術	終		
				(3100)食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立[H12～H16]	5/5	保鮮流通技術	終	国庫助成	165
				(4000)食味本位のリンゴ新商材の省力的生産体系の実証と消費流通評価[H14～H16]	3/3	果樹	終		
				(4100)省力・均質化生産体系の実証[H14～H16]	3/3	果樹	終		
				(4110)高品質均質化技術の実証[H14～H16]	3/3	果樹	終	国庫助成	166
				(4200)食味本位リンゴの消費流通調査[H14～H16]	3/3	農業経営	終	国庫助成	167
				(5000)食味本位リンゴの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策の解明[H12～H14]	-	農業経営	過		
				(5100)食味本位りんごの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策[H12～H14]	-	農業経営	過		
				(5110)現行光センサー選果機の活用上の問題点の把握と改善方策[H12～H14]	-	農業経営	過		
				(5120)食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析と改善方策[H12～H14]	-	農業経営	過		
		C-3-2-1	77	**(131)果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発[H9～H16]**	**8/8**	**果樹**	**終**		
				(1000)りんごのカラムナータイプ等に適合する新栽培方式・防除法の開発[H9～H16]	8/8	果樹	終		
				(1100)摘花・摘果の省力技術の開発[H9～H16]	8/8	果樹	終	国庫委託	168
				(1200)摘葉管理の省力技術の開発[H9～H16]	8/8	果樹	終	国庫委託	169
				(1300)密植立木仕立てでの省力的剪定技術の開発[H9～H16]	8/8	果樹	終	国庫委託	170
				(2000)りんごスパータイプ等特殊形質樹利用による低コスト・超省力・高品質生産技術の解明[H9～H13]	-	果樹	過		
				(2100)スパータイプ等特殊形質を有する品種の栽培特性の把握[H9～H13]	-	果樹	過		

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
野菜畑作	**新**	B-2-1-3	78	**(H16-11)冬期播種による小麦の高品質・持続的安定生産技術の確立[H16～H18]**	**1/3**	**野菜畑作**	**新**		
				(1000)　(1)子実蛋白含量制御技術の確立[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新	県単研究	171
				(2000)　(2)農薬使用量大幅削減技術の確立[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新	県単研究	172
				(3000)　(3)土壌伝染性ウイルス病害の発生軽減効果[H16～H18]	1/3	野菜畑作	新	県単研究	173
				〃　[H16～H18→H16]	1/1	病理昆虫	新・終(繰上)	県単研究	174
	継	B-1-1-1	79	**(875)大豆の奨励品種決定調査[H14～H18]**	**3/5**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)基本調査[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	175
				(2000)現地調査[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	176
				(3000)県北地域[H14～H18]	3/5	やませ利用	継	県単採種	177
			80	**(888)麦類の奨励品種決定調査[H14～H18]**	**3/5**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)県南・県央地域[H14～H18]	3/5	野菜畑作	継	県単採種	178
				(2000)県北地域[H14～H18]	3/5	やませ利用	継	県単採種	179
		B-1-1-2	81	**(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術[H14～H16→H17]**	**3/4**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)県央・県南地域[H14～H17]	3/4	野菜畑作	継	国庫委託	180
				(2000)研北地域[H14～H17]	3/4	やませ利用	継	国庫委託	181
		B-1-2-1	82	**(819)あずき系統適応性検定試験[H14～H22]**	**3/9**	**野菜畑作**	**継**	**国庫委託**	**182**
			83	**(835)ばれいしょ系統適応性検定試験[H14～H22]**	**3/9**	**野菜畑作**	**継**	**国庫委託**	**183**
			84	**(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験[H14～H22]**	**3/9**	**野菜畑作**	**継**	**国庫委託**	**184**
			85	**(889)麦類耐寒雪性特性検定試験[H14～H22]**	**3/9**	**野菜畑作**	**継**	**国庫委託**	**185**
		B-3-2-1	86	**(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明[H14～H22]**	**3/9**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)麦類の生育相と気象反応の解明[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継		
				(1100)県央・県南地域[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継	県単研究	186
				(1200)県北地域[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	県単研究	187
				(2000)大豆の生育相と気象反応の解明[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継		
				(2100)県央・県南地域[H14～H22]	3/9	野菜畑作	継	県単研究	188
				(2200)県北地域[H14～H22]	3/9	やませ利用	継	県単研究	189
		B-4-2-1	87	**(H15-39)麦後大豆の高品質栽培技術の確立[H15～H17]**	**2/3**	**野菜畑作**	**継**	**国庫委託**	**190**
		B-5-0-0	88	**(891)畑作物原々種・原種生産[S29/H14～H22]**	**51/57**	**野菜畑作**	**継**	**県単採種**	**191**
		D-1-1-2	89	**(H15-10)果菜類の低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17]**	**2/3**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)トマトの低コスト灌水施肥栽培技術の確立[H15～H15]	-	野菜畑作	過		
				(1100)栽培法の確立[H15～H15]	-	野菜畑作	過		
				(1200)栄養診断による施肥指標の策定[H15～H15]	-	土壌作物栄養	過		
				(2000)キュウリの点滴灌水施肥栽培技術の確立[H15～H17]	2/3	野菜畑作	継		
				(2100)栽培法の確立[H15～H17]	2/3	野菜畑作	継	県単研究	192
				(2200)栄養診断による施肥指標の策定[H15～H17]	2/3	土壌作物栄養	継	県単研究	193
				(3000)パッシブ水耕栽培の雨よけトマトへの適応性[H16～H17→H16]	1/1	野菜畑作	終(繰上)	県単研究	194
		D-2-1-1	90	**(H15-40)東北北部内陸地域におけるイチゴ夏秋どり新作型の開発[H15～H19]**	**2/5**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)短日処理による１０～１１月どり超促成栽培技術の開発[H15～H19]	2/5	野菜畑作	継	国庫委託	195
				(2000)越年株利用による７～８月どり技術の開発[H15～H19]	2/5	野菜畑作	継	国庫委託	196
				(3000)夏秋どり技術の体系化現地実証[H15～H19]	2/5	野菜畑作	継	国庫委託	197
			91	**(848)果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立[H14～H17]**	**3/4**	**野菜畑作**	**継**		
				(1000)キュウリ優良品種の選定と栽培法[H14～H16]	3/3	野菜畑作	終	県単研究	198
				(2000)トマト優良品種の選定と栽培法[H14～H15]	-	野菜畑作	過		
				(3000)ピーマン優良品種の選定と栽培法[H14～H17]	3/4	野菜畑作	継	県単研究	199
		D-4-0-0	92	**(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖[H8～H22]**	**9/15**	**野菜畑作**	**継**	**令達**	**200**
	終	D-1-1-2	93	**(849)果菜類における低コスト・安定生産のための新露地栽培体系の確立[H14～H16]**	**3/3**	**野菜畑作**	**終**		
				(1000)夏秋キュウリの長期安定生産技術の確立[H14～H16]	3/3	野菜畑作	終	県単研究	201
				(2000)トマト簡易雨よけ栽培の安定化技術の確立[H14～H16]	3/3	野菜畑作	終	県単研究	202
		D-1-1-3	94	**(816)ネギの産地力強化のための低ｺｽﾄ・長期安定供給技術の確立[H14～H16]**	**3/3**	**野菜畑作**	**終**		
				(1000)ネギの７月穫り作型開発と作型別適品種選定[H14～H15]	-	野菜畑作	過		
				(2000)ネギの省力機械化体系確立実証[H14～H15]	-	生産工学	過		
				(3000)ネギの高鮮度流通技術の確立[H14～H16]	3/3	保鮮流通技術	終	令達	203
				(4000)県中南部におけるねぎ主要害虫の防除体系[H14～H14]	-	病理昆虫	過		
				(5000)ネギ産地における流通改善方策の解明[H14～H16]	3/3	農業経営	終		
				(5100)流通コストの改善可能性と条件解明[H14～H16]	3/3	農業経営	終	令達	204
				(6000)ネギの低コスト・安定供給技術の実証[H15～H16]	2/2	野菜畑作	終	令達	205

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
花き	新	E-2-1-3	95	**(H16-12)寒冷地に適した土地利用型枝物花木類の生産技術の確立[H16～H22]**	**1/7**	**花き**	**新**		
				(1000)　(1)寒冷地向け枝物花木類の早期成園化技術の確立[H16～H20]	1/5	花き	新	県単研究	206
				(2000)　(2)高品質切り枝生産のための整枝・仕立て法の確立[H16～H22]	1/7	花き	新	県単研究	207
				(3000)　(3)寒冷地気象を生かした開花調節技術の確立[H16～H22]	1/7	花き	新	県単研究	208
				(4000)　(4)中山間地域における自生枝物花木類の生産技術の確立[H16～H20]	1/5	産地育成	新	県単研究	209
	継	E-1-1-2	96	**(884)突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価[H14～H21]**	**3/8**	**花き**	**継**		
				(1000)わい性「ポラーノホワイト」の生育特性の解明[H14～H17]	3/9	花き	継	県単研究	210
				(2000)Ａ４菌を利用したわい化りんどうの生育特性の解明及び栽培方法の確立[H17～H21]	-/5	花き	未		
		E-1-2-1	97	**(840)りんどうＦ１品種の親株維持、増殖技術の確立[H14～H22]**	**3/9**	**花き**	**継**		
				(1000)種子による親株維持技術の確立[H14～H22]	3/9	花き	継	県単研究	211
				(2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定[H14～H22]	3/9	花き	継	県単研究	212
		E-1-2-2	98	**(191)りんどうの品種育成[S49～H22]**	**31/37**	**花き**	**継**	**令達**	**213**
		E-1-3-1	99	**(831)スターチス有望育成系統の栽培管理技術の確立[H14～H18]**	**3/5**	**花き**	**継**	**県単研究**	**214**
		E-1-4-1	100	**(832)ニュータイプ小ぎくの品種育成[H14～H22]**	**3/9**	**花き**	**継**	**令達**	**215**
		E-2-1-4	101	**(H15-12)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立[H15～H19]**	**2/5**	**花き**	**継**		
				(1000)鉢物りんどう「いわて乙女」の高品質安定生産技術の確立[H15～H17]	2/3	花き	継	県単研究	216
				(2000)りんどう栄養系鉢物品種新規系統の高品質安定生産技術の確立[H17～H19]	-/3	花き	未		
				(3000)寒冷地向け鉢物用有望品種の安定生産技術の確立 [H18～H22]	-	花き	-		
		E-3-1-4	102	**(841)りんどうこぶ症の発生実態と原因の解明[H14～H18]**	**3/5**	**花き**	**継**		
				(1000)こぶ症発生実態と栽培条件による原因解明[H14～H18]	3/5	花き	継	県単研究	217
				(2000)こぶ症発生圃場の土壌及びりんどう養分吸収特性の解明[H14～H16]	3/3	土壌作物栄養	継	県単研究	218
				(3000)こぶ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索[H14～H16]	3/3	病理昆虫	終	県単研究	219
				(4000)生物工学手法によるりんどうこぶ症の原因解明[H16～H17]	1/2	応用生物工学	新	県単研究	220
		E-3-2-1	103	**(843)りんどうの生育・生態調査[H14～H22]**	**3/9**	**花き**	**継**	**県単研究**	221
		E-3-2-3	104	**(865)小ぎくの作期拡大技術の確立[H14～H22]**	**3/9**	**花き**	**継**	**県単研究**	222
			105	**(H15-11)りんどうの高品質促成栽培技術の確立　りんどうコンテナ栽培技術の確立[H15～H19]**	**2/5**	**花き**	**継**		
				(1000)コンテナ栽培における管理技術の確立[H15～H19]	2/5	花き	継	県単研究	223
				(2000)コンテナ栽培の培地組成の解明[H15～H19]	2/5	土壌作物栄養	継	県単研究	224
				(3000)コンテナ栽培の培地組成の解明 [H18～H22]	-	土壌作物栄養	-		
		E-6-0-0	106	**(214)りんどう優良系統の維持増殖[S49～H17]**	**31/32**	**花き**	**継**	**令達**	**225**
			107	**(H15-49)りんどう生産拡大緊急対策事業[H15～H19]**	**2/5**	**花き**	**継**		
				(1000)　(1)親株の安定生産技術[H15～H19]	2/5	花き	継	令達	226
				(2000)　(2)組織培養による親株の安定生産技術[H15～H19]	2/5	応用生物工学	継	令達	227
	終	E-3-1-1	108	**(844)りんどう栄養系品種の栽培技術の確立[H14～H16]**	**3/3**	**花き**	**終**	**県単研究**	**228**
南部園芸	新	D-1-1-2	109	**(H16-14)イチゴの低コスト、環境保全型高設栽培技術の確立[H16～H18]**	**1/3**	**南部園芸**	**新**		
				(1000)　(1)肥効調節型肥料を利用した低コスト技術の確立[H16～H18]	1/3	南部園芸	新	県単研究	229
				(2000)　(2)毛管給液方式を用いた閉鎖型給液管理技術の確立[H16～H18]	1/3	南部園芸	新	県単研究	230
		D-1-1-3	110	**(H16-13)高規格施設におけるトマト養液周年栽培技術の確立・実証[H16～H18]**	**1/3**	**南部園芸**	**新**	**県単研究**	**231**
		E-2-2-1	111	**(H16-15)アネモネのコンテナ栽培技術の確立[H16～H18]**	**1/3**	**南部園芸**	**新**	**県単研究**	**232**
	継	E-2-2-1	112	**(710)太陽光発電を利用した栽培技術の確立[H13～H17]**	**4/5**	**南部園芸**	**継**		
				(1000)温度管理等による花きの周年栽培体系の確立[H13～H17]	4/5	南部園芸	継	県単研究	233
	終	D-1-1-1	113	**(878)短日処理によるいちご促成栽培適応品種の選抜[H14～H16]**	**3/3**	**南部園芸**	**終**	**県単研究**	**234**
		E-2-2-1	114	**(820)アネモネの年内穫り作型における高品質栽培法の確立[H14～H16]**	**3/3**	**南部園芸**	**終**	**県単研究**	**235**
		E-3-1-3	115	**(822)アレンジメントアスターの高品質安定生産の確立[H14～H16]**	**3/3**	**南部園芸**	**終**	**県単研究**	**236**

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
環境保全	新	Y-1-0-0	116	**(H16-16) 1．産地評価向上手法の開発[H16～H20]**	**1/5**	**環境保全**	**新**		
				(1000)　(1)産地ＰＲのための里地里山の生き物活用手法の開発[H16～H18]	1/3	環境保全	新	県単研究	237
				(2000)　(2)環境保全活動の評価手法の開発[H16～H18]	1/3	農業経営	新	県単研究	238
				(3000)　(3)健康な土の簡易評価法の開発[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	県単研究	239
				(4000)　(4)安心イメージを高める産地評価手順の解明[H18～H20]	-/3	農業経営	未		
				〃	-/3	環境保全	未		
				〃	-/3	保鮮流通技術	未		
			117	**(H16-18) 3．安全安心な水稲栽培技術の総合実証[H16～H20]**	**1/5**	**環境保全**	**新**		
				(1000)　(1)たい肥による減化学肥料栽培技術の実証[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	令達	240
				(2000)　(2)減農薬栽培地域における合理的いもち病防除体系の選択支援技術の開発[H16～H18]	1/3	環境保全	新	県単研究	241
				(3000)　(3)発生予察に基づく水稲害虫の効率的防除体系の広域的実証[H16～H18]	1/3	病理昆虫	新	県単研究	242
				(4000)　(4)水稲減農薬・減化学肥料栽培地域における栽培技術体系の管理システム[H17～H20]	-/4	環境保全	未		
				〃	-/4	土壌作物栄養	未		
				〃	-/4	病理昆虫	未		
				(5000)　(5)堆肥の化学肥料代替施用時におけるいもち病感受性の変動[H16～H18]	1/3	環境保全	新	国庫委託	243
	継	K-1-1-1	118	**(H15-19)畑作地帯における硝酸性窒素等の環境動態解明と負荷軽減技術の評価[H15～H19]**	**2/5**	**環境保全**	**継**		
				(1000)硝酸性窒素等の動態解明手法の確立[H15～H18]	2/4	環境保全	終	令達	244
				(2000)硝酸性窒素等の負荷軽減技術の評価[H15～H19]	2/5	環境保全	継	令達	245
			119	**(H15-22)水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明[H15～H17]**	**2/3**	**環境保全**	**継**	**国庫委託**	**246**
		K-1-2-1	120	**(H15-20)減農薬栽培農産物における農薬残留評価手法の開発[H15～H17]**	**2/3**	**環境保全**	**継**	**県単研究**	**247**
			121	**〃**	**2/3**	**環境保全**	**継**	**令達**	**248**
		K-3-1-2	122	**(522)家畜排泄物等の有機物資源を活用した特別栽培農産物生産技術体系の確立[H14～H18]**	**3/5**	**環境保全**	**継**		
				(1000)農業分野における窒素収支の推定と解析[H14～H14]	-	環境保全	過		
				(2000)特別栽培農産物栽培管理方式の策定[H14～H16]	3/3	環境保全	終	県単研究	249
				(3000)有機農産物の生産条件の解明[H14～H15]	-	環境保全	過		
				(4000)岩手県内生産主要堆肥の成分特性にもとづく化学肥料代替技術の確立[H14～H16]	3/3	土壌作物栄養	終	令達	250
				(5000)マニュアスプレッダー利用による地域内有機物の急速堆肥化技術[H14～H15]	-	土壌作物栄養	過		
				(6000)県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立[H14～H18]	3/5	営農技術	継	国庫助成	251
		L-2-1-3	123	**(H15-21)県産農産物のカドミウム濃度の実態解明と吸収抑制対策[H15～H17]**	**2/3**	**環境保全**	**継**		
				(1000)水稲におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立[H15～H17]	2/3	環境保全	継	国庫助成	252
				(2000)野菜類のカドミウム吸収特性の解明[H15～H17]	2/3	環境保全	継	国庫委託	253
				(3000)カドミウム対策要否判断支援技術の開発[H18～H19]	-	環境保全	-		
	終	K-3-2-3	124	**(872)水田の機能を活用した生物多様性保全技術の確立[H14～H16]**	**3/3**	**環境保全**	**終**		
				(1000)水生生物を指標とした水田環境モニタリング[H14～H16]	3/3	環境保全	終	県単研究	254
		U-1-2-3	125	**(H15-48)酸性電解水による野菜の病害に対する抑制効果の実証(post521)（国庫課題名：電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証）[H15～H16]**	**2/2**	**環境保全**	**終**	**国庫委託**	**255**
		X-1-1-1	126	**(885)農業気象情報の管理と活用技術の開発[H14～H16]**	**3/3**	**環境保全**	**終**		
				(1000)農業気象観測及び微気象の降霜、地温等の推測手法の開発[H14～H16]	3/3	環境保全	終	県単研究	256
	未	Y-1-0-0	127	**(H16-19) 4．安全安心な野菜の栽培技術の実証[H17～H20]**	**-/4**	**環境保全**	**未**		
				(1000)　(1)健康な土の維持管理技術の開発[H18～H19]	-/2	土壌作物栄養	未		
				(2000)　(2)有機物利用による減化学肥料栽培技術の実証[H17～H19]	-	土壌作物栄養	-		
				(3000)　(3)栄養価、鮮度の評価手法の開発[H17～H20]	-/4	保鮮流通技術	未		
				(4000)　(4)おいしさアップ生産技術の体系化実証[H17～H19]	-	保鮮流通技術	-		
				〃	-	産地育成	-		
				〃	-	環境保全	-		
				(5000)　(5)特別栽培農産物生産支援技術の実証[H17～H20]	-/4	環境保全	未		

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	（課題番号）課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
土壌作物栄養	**新**	Y-1-0-0	128	**(H16-17) 2．産地の安全安心を支える基盤技術の開発[H16～H19]**	**1/4**	**土壌作物栄養**	**新**		
				(1000) (1)畜種別混合たい肥の製造と有効法の開発[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	県単研究	257
				(2000) (2)未利用資源を活用したたい肥作り[H17～H19]	-/3	飼料生産	未		
		L-1-2	129	**(H16-22)新肥料の実用化[H16～H22]**	**1/7**	**土壌作物栄養**	**新**		
				(1000)【農産部担当分】[H16～H22]	1/7	水田作	新		
				(1100)【水田作研究室担当分】[H16～H22]	1/7	水田作	新		
				(1110)有機質100%肥料を使用した水稲育苗培土実用性確認[H16～H17]	1/2	水田作	新	民間委託	258
				(1120)県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証（展示圃収量調査）［H16～H22]	1/7	水田作	新	民間委託	259
				(1200)【生産工学研究室担当分】[H16～H22]	1/7	生産工学	新		
				(1210)側条施肥による全量基肥施肥の肥効確認[H16～H18→H16]	1/1	生産工学	新・終(繰上)	民間委託	260
				(2000)【園芸畑作部担当分】[H16～H22]	1/7	果樹	新		
				(2100)【果樹研究室担当分】[H16～H22]	1/7	果樹	新		
				(2110)燐酸石膏入り肥料が樹体生育・果樹品質に及ぼす効果確認[H16～H16]	1/1	果樹	終・新	民間委託	261
				(2120)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認［H16～H16]	1/1	果樹	新	民間委託	262
				(2200)【野菜畑作研究室担当分】[H16～H22]	1/7	野菜畑作	新		
				(2210)大豆に対する新肥料の効率的施肥技術確立試験［H16～H16]	1/1	野菜畑作	終・新	民間委託	263
				(2220)根酸溶出タイプの緩行性肥料を使用した培土適用性確認［H16～H17]	1/2	野菜畑作	新	民間委託	264
				(2230)トマトの育苗用培養土としての適用性確認［H16～H17]	1/2	野菜畑作	新	民間委託	265
				(2240)きゅうりの育苗用土としての適用性確認［H16～H17]	1/2	野菜畑作	新	民間委託	266
				(2250)育苗ポット全量施肥法の確立［H16～H16]	1/1	野菜畑作	終・新	民間委託	267
				(2300)【花き研究室担当分】[H17～H22]	-/6	花き	未		
				(2310)【花き研仮置き(H16課題なし)】[H17～H18]	-/2	花き	未		
				(2400)【南部園芸研究室担当分】[H16～H22]	1/7	南部園芸	新		
				(2410)いちごの育苗培養土としての適応性確認[H16～H17]	1/2	南部園芸	新		
				(2411)チッソ成分の異なる培土１［H16～H17]	1/2	南部園芸	新	民間委託	268
				(2412)チッソ成分の異なる培土２［H16～H17]	1/2	南部園芸	新	民間委託	269
				(2420)育苗ポット内全量施肥法の確立[H16～H17]	1/2	南部園芸	新	民間委託	270
				(2430)有機態窒素50%、ロング態窒素30%を配合した肥料の効果確認[H16～H18]	1/3	南部園芸	新	民間委託	271
				(3000)【生産環境部担当分】[H16～H22]	1/7	環境保全	新		
				(3100)【環境保全研究室担当分】[H17～H22]	-/7	環境保全	未		
				(3110)【環境保全研仮置き(H16課題なし)】[H17～H22]	-/2	環境保全	未		
				(3200)【土壌作物栄養研究室担当分】[H16～H22]	1/7	土壌作物栄養	新		
				(3210)集落排水処理施設で発生する汚泥の適用性確認[H16～H16]	1/1	土壌作物栄養	終・新	民間委託	272
				(3220)県内産有機原料を配合した減化学対応肥料の効果確認［H16～H17]	1/2	土壌作物栄養	新	民間委託	273
				(3230)石灰窒素の小麦に対する１回追肥による肥効と省力を検討［H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	民間委託	274
				(3240)産業廃棄物（石膏）からのカルシウム・イオウの効果と酸性矯正確認［H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	民間委託	275
				(3250)側条施肥による全量基肥施肥の肥効確認［H16～H17]	1/2	土壌作物栄養	新	民間委託	276
				(3300)【保鮮流通技術研究室担当分】[H16～H22]	1/7	保鮮流通技術	新		
				(3310)非硝酸系被覆肥料を配合した基肥一発肥料の硝酸濃度の抑制効果［H16～H16]	1/1	保鮮流通技術	終・新	民間委託	277
				(4000)【県北農業研究所担当分】[H16～H22]	1/7	営農技術	新		
				(4100)【営農技術研究室担当分】[H16～H22]	1/7	営農技術	新		
				(4110)非硝酸系被覆肥料を配合した基肥一発肥料の硝酸濃度の抑制効果［H16～H16]	1/1	営農技術	新	民間委託	278
				(4120)水田土壌における可給態珪酸評価技術確立試験[H16～H16]	1/1	営農技術	終・新	民間委託	279
				(4130)展示圃収量調査[H16～H19]	1/4	営農技術	新	民間委託	280
				(4140)露地野菜に対する施肥効率向上技術［H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	281
				(4150)珪酸肥料の効果確認［H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	282
				(4151)熔融けい酸燐肥１号（とれ太郎）[H16～H16]	1/1	営農技術	終・新	民間委託	283
				(4152)珪酸入水稲追肥肥料（ＢＢ製）[H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	284

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
土壌作物栄養				(4153)シリカル４０[H16～H17]	1/2	営農技術	新	民間委託	285
				(4200)【産地育成研究室担当分】[H16～H22]	1/7	産地育成	新		
				(4210)県内産発酵鶏糞を配合した有機肥料の効果確認 [H16～H16]	1/1	産地育成	終・新		
				(4211)キャベツ[H16～H16]	1/1	産地育成	終・新	民間委託	286
				(4212)レタス[H16～H16]	1/1	産地育成	終・新	民間委託	287
				(4220)硝酸溶出タイプの緩行性肥料を使用した培土の適用性確認[H16～H17]	1/2	産地育成	新	民間委託	288
				(4230)カルシウム資材の施用によるりんごに対する効果の確認[H16～H17]	1/2	産地育成	新	民間委託	289
				(4300)【やませ利用研究室担当分】[H17～H22]	-/6	やませ利用	未		
				(4310)【やませ利用研仮置き(H16課題なし)】[H17～H22]	-/6	やませ利用	未		
		L-2-1	130	**(H16-23)県内水田の養分供給特性評価法の開発[H16～H18]**	**1/3**	**土壌作物栄養**	**新**		
				(1000)　(1) 県内水田土壌のチッソ発現予測法の開発[H16～H18]	1/3	土壌作物栄養	新	国庫助成	290
				(2000)　(2) 土壌と灌漑水ケイ酸含量によるケイ酸施用基準の策定[H16～H17]	1/2	土壌作物栄養	新	国庫助成	291
	継	A-3-3-2	131	**(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査[H15～H22]**	**2/8**	**土壌作物栄養**	**継**		
				(1000)水田における有機質資源連用効果[H15～H22]	2/8	土壌作物栄養	継	国庫助成	292
				(2000)畑地における有機質資源連用効果[H15～H22]	2/8	土壌作物栄養	継	国庫助成	293
				(3000)県北地域における畜産由来有機質資源連用効果[H15～H19]	2/5	営農技術	継	国庫助成	294
		E-3-1-1	132	**(H15-15)りんどうの養分吸収特性の解明[H15～H17]**	**2/3**	**土壌作物栄養**	**継**	**国庫助成**	**295**
		L-1-1-3	133	**(856)県内主要葉菜類の内部品質向上栽培技術の確立[H14～H17]**	**3/4**	**土壌作物栄養**	**継**		
				(1000)葉菜類の内部品質実態調査[H14～H15]	-	土壌作物栄養	過		
				(2000)キャベツの栄養成分の簡易品質評価法の開発[H15～H16]	2/2	保鮮流通技術	終	国庫助成	296
				(3000)キャベツの栄養成分変動要因の解明[H15～H17]	2/3	保鮮流通技術	継	県単研究	297
				(4000)土壌管理（有機物・塩基バランス制御）によるホウレンソウ、キャベツの硝酸濃度低減化[H15～H16]	2/2	土壌作物栄養	終	国庫委託	298
				(5000)施設栽培における有機物施用基準の策定[H15～H16]	2/2	土壌作物栄養	終	国庫助成	299
		L-3-2-2	134	**(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査[H15～H22]**	**2/8**	**土壌作物栄養**	**継**	**国庫助成**	**300**
	終	C-2-1-2	135	**(H15-14)画像解析によるりんごの生育栄養診断基準の策定[H15～H16]**	**2/2**	**土壌作物栄養**	**終**	**国庫助成**	**301**
		L-1-1-1	136	**(H15-13)水田における要素反応試験[H15～H19→H16]**	**2/2**	**土壌作物栄養**	**終(繰上)**	**県単研究**	**302**
		L-2-1-0	137	**(H15-47)スキャナー利用による土壌全炭素・全窒素の簡易推定法の確立[H15～H16]**	**2/2**	**土壌作物栄養**	**終**	**令達**	**303**
保鮮流通技術	新	W-1-1-0	138	**(H16-21)水田作物の地産地消型加工技術の開発[H16～H18]**	**1/3**	**保鮮流通技術**	**新**		
				(1000)　(1)嗜好性と機能性を併せ持つ新たな大豆加工応用化技術の開発[H16～H18]	1/3	保鮮流通技術	新	令達	304
				(2000)　(2)ハトムギの一次加工品の応用化技術開発[H16～H17]	1/2	保鮮流通技術	新	令達	305
		W-1-1-1	139	**(H16-57)冷害被害米の新用途開発[H16～H18]**	**1/3**	**保鮮流通技術**	**新**	**国庫委託**	**306**
	継	W-3-0-0	140	**(548)加工工房指導業務[H9～H22]**	**8/14**	**保鮮流通技術**	**継**	**県単公園**	**307**
	終	V-1-2-3	141	**(H15-17)雑穀系統の機能性・食味関連形質の評価[H15～H16]**	**2/2**	**保鮮流通技術**	**終**	**県単研究**	**308**
		V-2-1-2	142	**(874)西洋なし早期出荷のための予冷・追熟技術の開発[H14～H16]**	**3/3**	**保鮮流通技術**	**終**	**県単研究**	**309**
		V-2-3-1	143	**(883)通いコンテナ利用における高鮮度保持技術の確立[H14～H16]**	**3/3**	**保鮮流通技術**	**終**	**県単研究**	**310**
		W-1-1-1	144	**(H15-16)県産小麦の地域別製パン適性の評価手法確立[H15～H16]**	**2/2**	**保鮮流通技術**	**終**	**令達**	**311**
		W-1-2-1	145	**(H15-43)果実を丸ごと使った健康志向食品の開発[H15～H16]**	**2/2**	**保鮮流通技術**	**終**	**県単研究**	**312**
		W-1-2-2	146	**(881)地域特産物加工品による沢ごとオリジナル商品の開発[H14～H16]**	**3/3**	**保鮮流通技術**	**終**		
				(1000)「小枝柿」の脱渋技術の確立[H14～H16]	3/3	保鮮流通技術	終	県単研究	313
				(2000)特産作物ハトムギを利用した新規加工品の開発[H14～H15]	-	保鮮流通技術	過		
	未	Y-1-0-0	147	**(H16-20)５．野菜の品質自主管理技術の開発[H17～H20]**	**-/4**	**保鮮流通技術**	**未**		
				(1000)　(1)生産工程における自主管理手順の開発[H17～H20]	-/4	保鮮流通技術	未		
				〃	-/4	環境保全	未		
				〃	-	産地育成	-		
				(2000)　(2)収穫・出荷工程における自主管理手順の開発[H17～H20]	-/4	保鮮流通技術	未		
				(3000)　(3)流通段階における品質保持技術の開発[H17～H20]	-/4	保鮮流通技術	未		

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
病理昆虫	新	M-2-1-1	148	**(H16-24)岩手オリジナル品種のいもち病圃場抵抗性を利用した防除体系の確立[H16～H18]**	**1/3**	**病理昆虫**	**新**	**国庫助成**	**314**
		M-3-2-1	149	**(H16-25)りんごにおける病害虫総合防除技術の開発[H16～H18]**	**1/3**	**病理昆虫**	**新**		
				(1000)　(1)殺菌剤散布回数削減技術の確立[H16～H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	315
				(2000)　(2)カミキリムシ類の発生生態の解明と防除対策[H16～H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	316
			150	**(H16-26)施設ピーマンにおける病害虫総合防除技術の実証[H16～H18]**	**1/3**	**病理昆虫**	**新**	**国庫助成**	**317**
			151	**(H16-27)露地きゅうりにおける病害虫総合防除技術の現地実証[H16～H18]**	**1/3**	**病理昆虫**	**新**	**国庫助成**	**318**
	継	M-1-1-1	152	**(H15-27)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15～H17]**	**2/3**	**病理昆虫**	**継**		
				(1000)りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法[H15～H17]	2/3	病理昆虫	継	県単研究	319
		M-1-1-1	153	**(372)新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明[H9～H17]**	**1/3**	**病理昆虫**	**継**	**国庫委託**	**320**
		M-1-1-2	154	**(H15-26)りんごカメムシ類の発生生態と効率的防除法の確立[H15～H17]**	**2/3**	**病理昆虫**	**継**		
				(1000)指標植物による被害発生予測法[H15～H17]	2/3	病理昆虫	継	国庫助成	321
		M-1-2-1	155	**(3)【植物防疫事業研究】[H9～H22]**	**8/14**	**病理昆虫**	**継**	**国庫助成**	**322**
		M-3-1-1	156	**(H15-29)内分泌攪乱作用が懸念される農薬を使用しない病害虫防除技術の確立[H15～H17]**	**2/3**	**病理昆虫**	**継**		
				(1000)水稲における代替技術[H15～H15]	-	病理昆虫	過		
				(2000)りんごにおける代替技術[H16～H17]	1/2	病理昆虫	新	令達	323
				(3000)きゅうりにおける代替技術[H15～H16]	2/2	病理昆虫	終	令達	324
				(4000)りんどうにおける代替技術[H17～H18]	-/2	病理昆虫	未		
				(5000)内分泌攪乱作用のある農薬を使用しない病害虫防除体系の実証[H16～17]	1/2	病理昆虫	新	令達	325
				(6000)ねぎにおける代替技術[H16～H17]	1/2	病理昆虫	新	令達	326
		M-3-1-2	157	**(402)新農薬の効果検定と防除基準作成[H9～H22]**	**8/14**	**病理昆虫**	**継**		
				(1000)水稲種子消毒剤の大量種子消毒適用性試験[H13～H14]	-	病理昆虫	過		
				(1100)テクリード水和剤[H13～H14]	-	病理昆虫	過		
				(2000)県北地域[H9～H17]	8/9	営農技術	継	民間委託	327
				(3000)葉いもち防除に必要な箱施用剤の根圏成分量[H15～H15]	1/1	病理昆虫	過		
				(4000)本部[H9～H17]	8/9	病理昆虫	継	民間委託	328
				(5000)果樹[H16～H17]	1/2	果樹	新	民間委託	329
		M-3-2-1	158	**(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化[H15～H19]**	**2/5**	**病理昆虫**	**継**		
				(1000)ホップ灰色かび病新規防除薬剤の実用化試験[H15～H15]	-	病理昆虫	過		
				(2000)根みつばの菌核病[H15～H15]	-	病理昆虫	過		
				(3000)アワのアワノメイガ[H15～H15]	-	営農技術	過		
				(4000)ブルーベリーのショウジョウバエ類[H15～H16]	2/2	病理昆虫	終	国庫助成	330
				(5000)ヒエのアワノメイガ[H15～H15]	-	やませ利用	過		
				〃	1/1	営農技術	終・新	国庫助成	331
				(6000)農薬残留分析（ホップ、ブルーベリー）[H15～H18]	2/4	環境保全	継	国庫助成	332
				(7000)モミジガサの菌核病[H16～H18→H16]	1/1	病理昆虫	新・終(繰上)	国庫助成	333
				(8000)水わさびのアブラムシ類[H16～H18]	1/3	病理昆虫	新	国庫助成	334
				(9000)アワの畑地広葉雑草[H16～H16]	1/1	病理昆虫	新	国庫助成	335
				(A000)なばなのネキリムシ類[H16～H17]	1/2	病理昆虫	新	国庫助成	336
				(B000)畑ワサビのミドリサルゾウムシ[H16～H17]	1/2	病理昆虫	新	国庫助成	337
				(C000)ブルーベリーの斑点病[H17～H19]	-/2	病理昆虫	未		
				(D000)しそのネキリムシ類[H17～H18]	-/2	病理昆虫	未		
	終	M-2-1-2	159	**(H15-25)斑点米カメムシ類の総合的防除技術の組み立て[H15～H17→H16]**	**2/2**	**病理昆虫**	**終(繰上)**	**県単研究**	**338**

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号）課題名［実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
家畜育種	新	G-4-2-2	160	(H16-29)地域資源を活用した特産豚及び特産鶏の飼養技術の確立[H16～H19]	1/4	家畜育種	新	県単研究	339
		G-5-1-1	161	(H16-30)ニワトリ始原生殖細胞の凍結保存に関する研究[H16～H17]	1/2	家畜育種	新	県単研究	340
	継	G-1-1-2	162	(236)日本短角種産肉能力検定（直接法）[S45～H22]	35/41	家畜育種	継	令達	341
		G-1-1-2	163	(237)日本短角種産肉能力検定（現場検定法）[S48～H22]	32/38	家畜育種	継	令達	342
		G-4-1-5	164	(854)環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術の確立[H14～H17]	3/4	家畜育種	継	県単研究	343
		J-3-1-0	165	(H15-44)日本短角種をモデルとした全個体認証システムの構築と利用技術の開発[H15～H19]	2/5	家畜育種	継	国庫委託	344
家畜飼養	新	F-3-2-1	166	(H16-31)乳牛の泌乳効率を向上させるためのストレス緩和管理技術の確立[H16～H18]	1/3	家畜飼養	新	県単研究	345
	継	F-1-2-1	167	(721)発育効果及び生涯生産性を高める乳用雌育成牛の飼養管理技術の確立（旧題：集約放牧を組み入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立）[H13～H17]	4/5	家畜飼養	継	県単研究	346
		F-2-2-2	168	(H15-30)哺乳ロボットを応用した省力管理技術の確立[H15～H17]	2/3	家畜飼養	継	県単研究	347
	終	F-1-1-1	169	(230)高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立[H10～H16]	7/7	家畜飼養	終	県単研究	348
家畜工学	新	J-2-1-0	170	(H16-32)核移植技術を応用した種雄牛短期造成技術の確立　[H16～H22]	1/7	家畜工学	新		
				(1000)　(1)再構築胚の安定生産技術の確立[H16～H22]	1/7	家畜工学	新	県単研究	349
				(2000)　(2)種雄牛短期造成法の確立[H17～H22]	-/6	家畜工学	未		
	継	J-3-1-0	171	(304)肉用牛における経済形質とＤＮＡマーカーとの連鎖解析[H7～H22]	10/16	家畜工学	継	令達	350
	終	J-1-1-2	172	(864)受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の比較検討[H14～H16]	3/3	家畜工学	終	令達	351
		J-1-1-3	173	(824)ウシ胚移植を活用した効率的双子生産技術の確立[H14～H16]	3/3	家畜工学	終	県単研究	352
飼料生産	新	H-1-1-2	174	(H16-33)高消化性ソルガム品種特性比較試験[H16～H18]	1/3	飼料生産	新	令達	353
		H-2-2-1	175	(H16-34)転作田における牧草導入時期の検討[H16～H18]	1/3	飼料生産	新	令達	354
			176	(H16-35)トウモロコシの不耕起、簡易耕起栽培法の確立[H16～H18]	1/3	飼料生産	新	県単研究	355
	継	H-1-1-1	177	(253)とうもろこし市販品種の特性比較[S54～H22]	26/32	飼料生産	継	令達	356
			178	(254)とうもろこし系統適応性検定試験[S55～H22]	25/31	飼料生産	継	国庫委託	357
		H-1-2-1	179	(726)採草用牧草の播種基準の策定[H13～H17]	4/5	飼料生産	継	県単研究	358
		H-2-3-1	180	(892)牧草の気象感応試験[H14～H22]	3/9	飼料生産	継	県単研究	359
		K-2-1-4	181	(H15-31)自給飼料をベースとした安全安心畜産物生産システムの確立[H15～H17]	2/3	飼料生産	継		
				(1000)有機飼料作物生産をめざした地力評価に基づく施肥法の確立[H15～H17]	2/3	飼料生産	継	県単研究	360
				(2000)長大型飼料作物ラップサイレージの調製・品質保持技術の確立[H15～H17]	2/3	飼料生産	継	県単研究	361
				(3000)長大型飼料作物ラップサイレージの生産・供給システムの構築[H15～H17]	2/3	農業経営	継	県単研究	362
				(4000)日本短角種の全期粗飼料多給型肥育技術の確立[H15～H17]	2/3	家畜育種	継	県単研究	363
				(5000)消費者に向けた安心安全な牛肉生産・流通評価基準の確立[H15～H17]	2/3	家畜育種	継	県単研究	364
	終	F-2-1-2	182	(H15-32)通気性被覆シートによる堆肥化技術の確立[H15～H16]	2/2	飼料生産	終	県単研究	365
		F-3-1-1	183	(879)地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立[H14～H16]	3/3	飼料生産	終		
				(1000)県内酪農地帯における地域資源を活用した資源循環型酪農経営の定着方策[H14～H16]	3/3	農業経営	終		
				(1100)主要酪農地帯における粗飼料生産給与と家畜飼養管理技術の実態把握[H14～H15]	-	農業経営	過		
				(1200)開発技術導入による資源循環型酪農の定着要件の解明[H16～H16]	1/1	農業経営	終	国庫助成	366
				(2000)畑地における堆厩肥を高度に利用した一年生飼料作物の資源循環型粗飼料生産技術の開発[H14～H16]	3/3	飼料生産	終		
				(2100)一年生飼料作物の生育特性と生産性の解明[H14～H16]	3/3	飼料生産	終	国庫助成	367
				(2200)一年生飼料作物の資源循環型栽培技術の確立[H15～H16]	2/2	飼料生産	終	国庫助成	368
				(2300)一年生飼料作物と冬作物との組み合わせによる周年作付け体系技術の確立[H15～H16]	2/2	飼料生産	終	国庫助成	369
				(3000)一年生飼料作物の給与と効率的な放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立[H14～H16]	3/3	家畜飼養	終		
				(3100)泌乳期に対応した一年生飼料作物の給与技術[H15～H17→H16]	2/2	家畜飼養	終	国庫助成	370
				(3200)脂質代謝関連物質を指標とする周産期病予察技術の開発[H15～H16]	2/2	家畜飼養	終	国庫助成	371
				(3300)生涯生産性を高める育成期集約放牧飼養管理技術の確立（旧題：集約放牧を取り入れた高能力牛の育成期飼養管理技術の確立）[H14～H16]	3/3	家畜飼養	終	国庫助成	372
				(3400)時間制限放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立[H16]	1/1	家畜飼養	終	国庫助成	373
				(4000)地域飼料資源の給与と運動の組み合わせによる高能力牛群飼養管理技術の現地実証[H16～H18]	-	家畜飼養	-		
				(4100)開発技術導入による高能力牛群飼養管理システムの現地実証[H16～H18]	-	家畜飼養	-		
				(4200)導入される高能力牛群飼養管理システムの経営経済評価[H16～H18]	-	農業経営	-		

主　査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	（課題番号）課題名［実施年度］	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実施 No
外山畜産	新	G-2-1-8	184	**(H16-36)中山間地域の草地資源の高度利用による黒毛和種集団繁殖・育成管理技術の確立[H16～H18]**	**1/3**	**外山畜産**	**新**		
				(1000)　(1)公共牧野における簡易胚移植技術の確立[H16～H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	374
				〃	1/3	家畜工学	新	県単研究	375
				(2000)　(2)寒冷地における黒毛和種人工哺育子牛の損耗防止技術の確立[H16～H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	376
				〃	1/3	農業経営	新	県単研究	377
				(3000)　(3)黒毛和種肥育素牛の集団飼養におけるTMRを活用した自給飼料多給型育成技術の確立[H16～H18]	1/3	外山畜産	新	県単研究	378
				〃	1/3	家畜育種	新	県単研究	379
				〃	1/3	農業経営	新	県単研究	380
		H-3-1-1	185	**(H16-37)牧草地における粗砕カキ殻の土壌改良資材としての利用技術の確立[H16～H18]**	**1/3**	**外山畜産**	**新**	**県単研究**	381
			186	**(H16-38)減化学肥料化を目指した牧草地における発酵鶏糞ペレットの施肥基準の策定[H16～H18]**	**1/3**	**外山畜産**	**新**	**県単研究**	382
		H-4-1-3	187	**(H16-55)狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発[H16～H18]**	**1/3**	**外山畜産**	**新**	**国庫委託**	383
		K-2-1-1	188	**(H16-39)カキ殻充填水路と人工湿地を併用したパドック排水の簡易浄化処理技術の開発[H16～H18]**	**1/3**	**外山畜産**	**新**	**県単研究**	384
	継	G-2-1-3	189	**(H15-45)日本短角種DM牛の特性解明と系統造成[H15～H19]**	**2/5**	**外山畜産**	**継**	**国庫委託**	385
種山畜産	継	G-1-1-1	190	**(234)黒毛和種産肉能力検定（直接法）[S62～H22]**	**18/24**	**種山畜産**	**継**	**令達**	386
			191	**(235)黒毛和種産肉能力検定（間接法・現場後代検定）[H1～H22]**	**16/22**	**種山畜産**	**継**	**令達**	387
		G-1-1-4	192	**(857)県有種雄牛の利用及び能力調査[H14～H22]**	**3/9**	**種山畜産**	**継**	**県単研究**	388
		G-1-2-3	193	**(859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出[H14～H22]**	**3/9**	**種山畜産**	**継**	**県単研究**	389

主 査 研究室 (小課題)	実施 区分	主となる 推進構想 (小課題)	連番	(課題番号) 課題名 [実施年度]	H16経 過年	担当研究室	実施 区分	予算区分	実 施 No
営農技術	新	D-2-1-3	194	(H16-41)地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立[H16～H18]	1/3	営農技術	新	県単研究	390
		X-1-2-2	195	(H16-42)フィールドサーバーの実用化技術の開発[H16～H18]	1/3	営農技術	新	県単研究	391
	継	O-2-1-2	196	(836)ホウレンソウの機械収穫に適した品種の選定[H14～H17]	3/4	営農技術	継		
				(1000)機械収穫に適したほうれんそうの形態・形質の解明[H14～H17]	3/4	営農技術	継	国庫委託	392
				(2000)機械収穫適性の高い品種の選定[H14～H17→H16]	3/3	産地育成	終(繰上)	国庫委託	393
	終	K-2-2-1	197	(847)奥中山地域における液状コンポスト調整利用システムの確立[H14～H16]	3/3	営農技術	終		
				(1000)乳牛ふん尿の液状コンポスト好気的調整システムの確立[H14～H15]	-	飼料生産	過		
				(2000)草地や飼料作物を対象とした液状コンポスト利用技術の確立[H14～H16]	3/3	営農技術	終	県単研究	394
産地育成	新	D-2-1-3	198	(H16-43)寒締めホウレンソウの高品質安定生産技術の確立[H16～H18→H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)		
				(1000) (1)寒締めホウレンソウ栄養価指標「岩手スタンダード」の策定[H16～H18→H16]	1/1	保鮮流通技術	新・終(繰上)	令達	395
				(2000) (2)寒締めホウレンソウの夏作への影響の解明と対策[H16～H18→H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	県単研究	396
				(3000) (3)寒締め栽培を取り入れたホウレンソウ周年栽培経営成立条件の解明[H16～H18→H16]	1/1	農業経営	新・終(繰上)	県単研究	397
		E-2-1-1	199	(H16-44)県北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立[H16～H18]	1/3	産地育成	新	県単研究	398
		E-2-2-1	200	(H16-45)中山間地域における有望宿根草の高品質安定栽培法の確立[H16～H18→H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)		
				(1000) (1)有望宿根草の安定生産技術の確立[H16～H18→H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	県単研究	399
				(2000) (2)有望宿根草の高品質商品化技術の開発[H16～H18→H16]	1/1	産地育成	新・終(繰上)	県単研究	400
	継	D-2-1-3	201	(H15-46)寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発[H15～H17]	2/3	産地育成	継		
				(1000)生長調節シナリオの策定[H15～H17]	2/3	産地育成	継	国庫委託	401
				(2000)寒締めデグリーアワーの策定[H15～H17]	2/3	産地育成	継	国庫委託	402
		D-2-2-1	202	(828)カラシナによるほうれんそう萎凋病軽減技術の開発[H14～H17]	3/4	産地育成	継	県単研究	403
		D-3-2-2	203	(H15-33)高冷地レタスの高位安定生産技術の確立[H15～H19]	2/5	産地育成	継		
				(1000)腐敗性病害の発生実態の解析[H15～H17]	2/3	営農技術	継	県単研究	404
				(2000)優良品種の選定[H15～H17]	2/3	産地育成	継	県単研究	405
				(3000)総合防除技術の確立[H15～H19]	2/5	産地育成	継	県単研究	406
		E-2-1-4	204	(H15-34)花壇苗及び鉢花の高収益栽培技術の確立[H15～H17]	2/3	産地育成	継		
				(1000)秋出しパンジーの商品化率向上技術の確立[H15～H17]	2/3	産地育成	継	県単研究	407
				(2000)県北地域に適する花壇苗・鉢花品目の選定と商品化技術の確立[H15～H17→H16]	2/2	産地育成	終(繰上)	県単研究	408
	終	D-2-1-1	205	(880)地域適応性に優れた品種の選定[H14～H16]	3/3	産地育成	終		
				(1000)ホウレンソウの品種選定[H14～H15]	-	産地育成	過		
				(2000)キャベツの品種選定[H14～H16]	3/3	産地育成	終	県単研究	409
				(3000)ダイコン優良品種の選定[H14～H16]	3/3	産地育成	終	県単研究	410
やませ利用	新	B-1-1-2	206	(H16-40)いわてオリジナル雑穀品種の開発と生産・加工技術の確立[H16～H21]	1/6	やませ利用	新		
				(1000) (1)岩手在来系統の特性評価と品質優良系統の選定[H16～H21]	1/6	やませ利用	新	令達	411
				(2000) (2)オリジナル雑穀品種の開発[H16～H21]	1/6	やませ利用	新	令達	412
				〃	1/6	水稲育種	新	令達	413
				(3000) (3)雑穀の省力・安定栽培技術確立[H16～H21]	1/6	やませ利用	新	県単研究	414
				〃	1/6	営農技術	新	県単研究	415
				(4000) (4)雑穀の高付加価値栽培技術確立[H16～H21]	1/6	営農技術	新	県単研究	416
				(5000) (5)系統判別技術の確立[H19～H21]	-/3	応用生物工学	未		
	終	B-2-2-3	207	(H15-36)葉たばこ用新資材の実用化[H15～H17→16]	2/2	やませ利用	終(繰上)	民間委託	417
		K-1-3-1	208	(H14-05)葉たばこ栽培における還元型マルチ資材処理システムの検証[H14～H16]	3/3	やませ利用	終		
				(1000)生分解性マルチ資材の実用性と後処理技術の確立[H14～H16]	3/3	やませ利用	終	令達	418

(3) 要望課題の措置

平成１７年度に実施を要望する試験研究課題の検討結果

措置区分　A=平成１７年度実施
B=現在実施中
C=既知見あり
D=次年度実施できない

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (○主査)	検討部会
1	盛岡市認定農業者協議会	水稲の独自品種の早期開発	岩手県の現在の主力品種は、ひとめぼれやあきたこまちで他県で育成された品種となっており、岩手の独自性が感じられないと言われている。このことから岩手県の農産物全体のイメージが曖昧となり、岩手の農業の評価向上を妨げている。また、昨年の異常低温に際し、強耐冷性品種とされたかけはしの被害が大きかったことから、盛岡周辺の気象条件に適合し、低温に強く、優れた食味の品種の開発が強く望まれる。	B	水稲育種研究室	農産部会
2	全農いわて営農対策室	特別栽培農産物に係る主要野菜の栽培技術体系の確立	特別栽培農産物の要件である、化学合成農薬と化学肥料を慣行の 50%以上減して栽培する場合の、主要野菜のモデル的栽培体系の確立	B A	○環境保全研究室 病理昆虫研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会 （野菜）
3	岩手県農業共済組合連合会	「大豆の播種前種子浸漬」方法の確立	播種時の大豆の種子水分が 15%（通常は12%）であると出芽が良好かつ初期生育が良好で、播種直後の降雨にあっても発芽率の低下が少ない。この種子水分を 15%にするために種子の「播種前浸漬」により水分を調整する技術の実証と具体的方法の確立。 （解決を要する事項） 別紙の全国豆類経営改善共励会で農林水産大臣賞受賞の兵庫県の農家は、播種 1～2 週間前に種子を 10 分間水に浸漬。その後、乾燥、播種しているが、具体的に何度の水がよいのか、その後の乾燥方法はどうするかについて、生産者が実行できる技術を確立する。	C	専門技術員室	農産部会
4	衣川村	リンドウ栽培圃場を継続利用できる技術の確立	・リンドウの栽培の継続、拡大の障害は圃場の継続利用ができないことである。 ・採花終年（5 年間）をむかえた圃場は 3 年以上水稲に転換しなければならないため、中山間地域の平均耕作面積 1.1ha の農家においては、規模の拡大はもとより現状採花面積の確保もできない状況。 ・対策として、ハウスについてはコンテナ栽培、又は、移動式ハウスにより実証試験をしているが、どちらの取組も重労働であり、土壌の改善についての根本的な対策とはなっていない。 ・いわてのリンドウの産地強化対策として緊急に取り組んでいただきたい	D	○花き研究室 土壌作物栄養研究室 病理昆虫研究室	園芸部会 （花き）
5	農業普及技術課	斑点米カメムシ類の効率的な防除方法の開発	(1) 耕種的対策の防除効果の評価 ・水稲の出穂10～15日前における転作牧草等の刈り取りの効果について評価。（アカスジに対し、この時期までの草刈りが有効なのか。より近い出穂期の草刈りは効果があるのか。） (2) 水稲出穂期以降の草刈りと薬剤防除を組み合わせた防除方法の検討 ・水稲出穂期以降に本田周辺の発生源の刈り取りを行った直後に薬剤防除を実施することで斑点米の発生を防げるかどうか検討する	B	病理昆虫研究室	農産部会

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (○主査)	検討部会
6	農業普及技術課	出穂前後の低温遭遇によるいもち病多発機構の解明と防除要否判定技術の開発	(1) 幼穂形成期～出穂期の低温遭遇時期・程度の違いによるいもち病多発機構の数的解明 ・出穂期葉いもち微→登熟期穂いもち多となるメカニズムをひとめぼれにおいて解明 ・「出穂期の上位葉１病斑→（出穂後の葉いもちの増加・籾いもち）→穂いもち発生量（首・枝梗への感染量）」の過程における環境要因（前歴低温、出穂後低温、日照時間、飛散胞子の感染率）の影響の定量化。（直接的・間接的影響） (2) 多発機構の解明に基づく防除要否判定技術の確立 ・出穂前後の葉いもち発生量に基づく、防除要否判定技術を開発	B	○病理昆虫研究室 環境保全研究室	農産部会
7	農村計画課	農業農村整備事業におけるコスト低減等の効果	農業農村整備事業（圃場整備事業）実施前の生産性及び生産費の把握	D B	○農業経営研究室 生産工学研究室	総合部会
8	農村計画課	農業農村整備事業における環境配慮工法の環境保全効果	ほ場整備事業「門崎地区」についての調査・試験の実施を」要望する ・農業農村整備事業実施地区の生物（メダカ等の現状把握） ・事業実施による生物への影響把握 ・生物への影響の少ない工法の提案	A	○生産工学研究室 環境保全研究室	総合部会
9	畜産課	家畜排せつ物等を利用したバイオガスプラントから発生する消化液の液肥利用体系の確立	(1) 原料割合別消化液成分把握と効果の検討（H17～18） (2) 作物別の消化液利用効果の検討（H17～19） (3) 地域での消化液の効率利用体系の確立（H18～19）	D A C	飼料生産研究室	畜産部会
10	花巻地方振興局農林部	集落営農の核となる法人の姿の提案	法人化を目指した集落型経営体の確立方策の提示	B	農業経営研究室	総合部会
11	花巻地方振興局農林部	水田における「あわ・いなきび」の大規模技術体系の確立	これまで推進してきた「ひえ」に加えて、「あわ・いなきび」に大規模に取り組もうとする集落が出てきたが、「あわ・いなきび」は水田における大規模技術体系が確立されていない	B A	○やませ利用研究室 営農技術研究室 野菜畑作研究室 生産工学技術研究室	農産部会
12	一関地方振興局農林部	小規模放牧の推進について（耕作放棄地並びに転作田の活用）	(1)県内における小規模放牧実施状況調査 (2)小規模放牧利用推進マニュアル作成（岩手県版）	A B	○外山畜産研究室 専門技術員室	畜産部会
13	遠野地方振興局農政部	暮坪かぶの栽培土壌と内部品質の関係	遠野市の特産物である暮坪かぶは、低農薬栽培のため栽培が難しいことや高齢化により、年々、栽培者や面積が減少し、平成15年度には栽培者が１人、面積が１ha となり、産地消滅の危機となっている。また、暮坪集落以外で栽培された生産物は、従来の暮坪かぶと比べて味や苦み等の内部品質が違うと言われている。そこで、暮坪かぶの内部品質が、栽培土壌が変わっても変化が無ければ、特定地域でない場所での栽培も可能となり、栽培者や栽培面積が増加していくことが期待される 1.栽培土壌の適応性 2.栽培土壌と内部品質の関係	D	○保鮮流通技術研究室 専門技術員室 野菜畑作研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会（野菜）
14	宮古地方振興局農政部	カキ殻の農業向け利用拡大	(1)カキ殻の特性（既存データの整理） (2)土壌及び作物に対する施用効果の確認 ・実証品目：ほうれんそう、ピーマン、りんご、飼料作物など ・土壌改良効果（ミネラル類の変化、効果の持続性など） ・作物に対する効果（生育、収量、内部品質など） (3)土壌施用のための低コスト粉砕方法の開発（直径1～3cm の範囲でできるだけ小さいこと） (4)効果を引き出すための施用方法	C B D B	○土壌作物栄養研究室 外山畜産研究室	総合部会

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	研究区分	担当研究室 (○主査)	検討部会
15	二戸地方振興局農政部	雑穀の無化学肥料栽培の開発と商品化技術	・ 雑穀の無化学肥料栽培 ・ 無農薬無化学肥料栽培に対する消費者評価などマーケティング手法の検討	B C	○営農技術研究室 農業経営研究室	農産部会
16	二戸地方振興局農政部	産直において品揃えを良くするを目的とした園芸品目の作期拡大技術	二戸管内の産直施設において、周年にわたる品揃え（特に野菜）を良くするためのノウハウが不足しているので、事例なども併せて作期拡大技術を検討して欲しい	C	専門技術員室	総合部会
17	岩手県病害虫防除所	斑点米発生量低減のための割れ籾の発生条件および発生予測について	・ 割れ籾の発生する条件について、それぞれの要因ごとに整理する。（気象、品種、施肥等） ・ 作況の中で割れ籾の発生等も観察し、データを蓄積する。 ・ カメムシの個体群の動態	B	○水田作研究室 やませ利用研究室 病理昆虫研究室	農産部会
18	岩手県病害虫防除所	オウトウの枝枯れ及び枯死症状発生の原因解明	オウトウの枝枯れ症状の発生原因の解明	B	○病理昆虫研究室 果樹研究室	園芸部会 （果樹）
19	岩手県病害虫防除所	複合交信攪乱剤を利用したキャベツ害虫防除体系の確立	・コンフューザーV（今年度春登録見込み：コナガ、ヨウトウガ、ウワバを対象とした交信攪乱剤）を利用した防除効果。 ・供試薬剤の周辺環境及び他生物への影響（モンシロチョウにおけるサムライコマユバチやコナガにおける寄生蜂の寄生率等の推移）	B	○病理昆虫研究室 営農技術研究室	園芸部会 （野菜）
20	盛岡農業改良普及センター	経年草地の雑草（クサヨシ）の防除方法	経年草地ではこの雑草を選択的に除草する薬剤はなく、被害の大きくなった草地は草地更新をせざるを得ない。更新しても残ることが多く防除方法の確立が必要	C	専門技術員室	畜産部会
21	盛岡農業改良普及センター	冷害年や青刈りの稲ワラに含まれるカロチン含量と保存期間中の減少量について	稲の収穫時期別によるカロチン含量及び調整時期や給与するまでの保管期間中の減少量の関係を明らかにする。要望課題名に冷害イネ、青刈りイネとあり、特定のイネについての要望であるかどうか確認した。対象イネを特定したものでなく稲ワラであるとのこと	C	○飼料生産研究室 家畜育種研究室	畜産部会
22	盛岡農業改良普及センター	放牧地に適する日陰林と保護方法について	放牧地に適した避陰林とその保護方法	C	専門技術員室	畜産部会
23	花巻農業改良普及センター	熱水土壌消毒機器の導入条件の解明	熱水土壌消毒器を導入するに当たり、導入主体の特定及び、主体もしくは生産者団体の作目構成と生産規模、機器の利用条件を明確にして、本県で本機器の活用を図るべきか明確にする。現在、その有効性が最も検討されているのは、きゅうりのホモプシス病である。本病は土壌病害であり、発症により急速にきゅうりを枯死にいたらしめ、翌年も同じ圃場にて発症するといった特徴を持つ。産地を脅かす病害であることから、平成16年次の成果が求められる 1. 導入作目に要求される土地生産性と、稼働率を高めるための作目構成・処理エリア 2. 処理コストの評価、特に機器の償却費、ランニングコスト、処理に掛かる人件費、移動経費	B C	○病理昆虫研究室 農業経営研究室	園芸部会 （野菜）
24	花巻農業改良普及センター	集落型経営体によるえだまめ機械化一貫体系の確立	当地では平成16年度にえだまめの組織化を重点的に進める方針である。 ついては下記の課題について解決を図りたい ・組織創設の手順 ・組織運営のあり方 ・集落型経営体を前提とした機械化一貫体系の確立	B	○生産工学研究室 野菜畑作研究室 農業経営研究室	園芸部会 （野菜）
25	水沢農業改良普及センター	「トマト軟果玉の発生原因の解明」	・軟化玉の発生に関係する生理機作の解明 ・施肥量・潅水量・温度管理が果実肥大及び品質（硬度）に及ぼす影響の解明 ・収穫後の保存環境と果実品質の関係解明	D	○野菜畑作研究室 保鮮流通技術研究室	園芸部会 （野菜）

No	要望機関名	要望課題名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室 (○主査)	検討部会
26	水沢農業改良普及センター	「発酵 TMR 飼料の特性と乳用牛に及ぼす影響の解明」	1. 発酵 TMR 飼料（乳酸発酵・アルコール発酵等）の流通状況把握（H17） 2. 各種 TMR 飼料の飼料特性解明（H17） ・有機酸組成・品質評価・保存特性等 3. 発酵 TMR 飼料給与が乳牛に及ぼす影響の解明（H18） ・一般的な TMR 飼料との比較（嗜好性、栄養価、安全性、生産性への影響等） 4. 地域副産物等を活用した発酵 TMR 飼料の経済効果（H18）	A	○農業経営研究室 家畜飼養研究室 飼料生産研究室	畜産部会
27	水沢農業改良普及センター	本県果樹重点品目「りんご」、「ぶどう」、「西洋なし」、「おうとう」の有望品種の検討	県内果樹の重点 4 品目である、「りんご」、「ぶどう」、「西洋なし」、「おうとう」の推進品種見直しに向けた新品種の栽培試験	B	果樹研究室	園芸部会 （果樹）
28	水沢農業改良普及センター	おうとう垣根仕立の経済性検討及び簡易な栽培技術の実証	おうとう垣根仕立における生産量、品質、労働力、経済性等を立木仕立と比較、検討し、その有利性を実証し、栽培技術をマニュアル化する	D	果樹研究室	園芸部会 （果樹）
29	一関農業改良普及センター	稲発酵粗飼料（WCS）の安定給与	1. 籾の消化性改善のための検討 (1) 物理的改善方法の提示（必要な機械装備、作業手順など）	C	専門技術員室	畜産部会
30	一関農業改良普及センター	エアージェクションシステムの効果と経済性	埋設された点滴チューブを通して灌水とともに空気を根部に送るエアージェクションシステムの現地導入が進んでいる。本システムの生育促進効果を中心とした導入効果および関連した注意事項を明らかにする	D	野菜畑作研究室	園芸部会 （野菜）
31	一関農業改良普及センター	オゾン水の土壌消毒効果	オゾン水の消毒効果を用い、これを土壌消毒に用いることで臭化メチルの代替技術や一般に行われている連作障害の対策として有効であるか検証する	B	○環境保全研究室 病理昆虫研究室	総合部会
32	千厩農業改良普及センター	小ぎくの開花期前進技術の確立	露地の 7 月出荷作型として、収穫後株分けをせず、そのまま株を越冬させることにより開花を前進させる技術の確立はできないか。 また、8 月中下旬咲き品種の小ぎくも同様に行うことにより、開花期を 10～20 日前進化させる技術の確立はできないか	D B	花き研究室	園芸部会 （花き）
33	久慈農業改良普及センター	ほうれんそうのケナガコナダニ発生要因の解明と被害軽減対策及び防除法の確立	1. ケナガコナダニの発生要因の解明 2. 発生回避のための堆肥の質的簡易評価法と施用基準の策定 3. ケナガコナダニの防除法の確立 4. ケナガコナダニの簡易同定法、カウント手法の開発	A C	○病理昆虫研究室 環境保全研究室 産地育成研究室 営農技術研究室 土壌作物栄養研究室	園芸部会 （野菜）
34	二戸農業改良普及センター	雑穀の移植栽培技術の開発	1. 雑穀栽培を前提とした育苗技術の開発（H17～18） 2. 移植栽培法の開発（H17～18） 3. 雑穀の種類と移植適正（H17～18）	C	やませ利用研究室	農産部会
35	二戸農業改良普及センター	雑穀を取り入れた効率的輪作体系技術の開発	・雑穀間の輪作体系導入により発生密度を低減できるか検証して欲しい。 ・葉たばこや露地野菜の連作障害対策に雑穀を組み入れた輪作体系の導入が効果的か検討して欲しい	D	営農技術研究室	農産部会

5　共同研究等の推進

(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究（国庫１／２補助）

課　題　名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	主査研究室
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術	宮城古川農試 山形農試	13～16	東北北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学
地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立	北海道畜試 青森畜試 秋田畜試 宮城畜試 福島畜試	14～16	資源循環型の高品質な自給粗飼料生産技術、高能力牛の飼養管理技術の確立	飼料生産

(2) 国庫委託研究事業（国庫 10／10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
特性検定試験事業 ・　麦類（耐寒雪性） ・　大豆（立枯性病害抵抗性）	国	継続	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る	 野菜畑作 野菜畑作
系統適応性検定試験事業 ・　水陸稲 ・　馬鈴薯 ・　小豆 ・　とうもろこし ・　果樹	国	継続	国及び育種指定試験試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	 水稲育種 野菜畑作 野菜畑作 飼料生産 果樹

(3) 交付金プロジェクト委託研究（10／10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
画期的園芸作物新品種創出による超省力栽培技術の確立	(独)果樹研究所	13～16	リンゴのカラムナータイプに適合した省力技術体系の開発	果樹
電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証	(独)東北農業研究センター	15～16	電解水によるキュウリ等の病害に対する抑制効果の実証	環境保全
寒冷地におけるイチゴの周年供給システムの確立	(独)東北農業研究センター	15～19	東北北部内陸地域における夏秋どり新作型の開発	野菜畑作
			超促成・越年（株）型経営モデル作成	農業経営

(4) 委託プロジェクト研究（10／10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
新鮮でおいしい「ブランドニッポン」農産物提供のための総合研究	(独)野菜茶業研究所	14～17	ホウレンソウの機械収穫に適した品種の選定	営農技術 産地育成
	(独)東北農業研究センター	15～17	有望小麦系統の高品質・安定多収栽培技術の開発	野菜畑作 やませ利用
			麦後大豆の高品質栽培技術の確立	野菜畑作
			寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系化技術の確立	水田作 飼料生産

事業名・課題名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
農林水産生態系における有害化学物質の総合管理技術の開発	(独)農業環境技術研究所	15～17	東北地域における野菜の低吸収・低蓄積機構の解明	環境保全
			動態モデル開発のための水田用農薬の動態解明	環境保全
食品の安全性及び機能性に関する総合研究	(独)農業生物資源研究所	15～19	日本短角種の全個体認証システムの構築	家畜育種
せん定枝粉砕搬出機の開発・利用に関する調査	(独)生物系特定産業技術研究支援センター	16～19	りんごせん定枝の粉砕搬出機の開発・利用に関する調査の実施	果樹
データベース・モデル協調システムの開発	(独)中央農業総合研究センター	13～17	分散協調型農業技術体系データベースを用いた生産計画支援システムの開発	農業経営

(5) 先端技術を活用した農林水産研究高度化事業（10／10 委託）

課題名	共同研究機関（◎は中核機関）	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
野菜における硝酸塩蓄積機構の解明と低減化技術の開発	◎(独)野菜茶業研究所 北海道立花・野菜技術センター 秋田県総合食品研究所 栃木県農業試験場 埼玉県農林総合研究センター 千葉県農業総合研究センター 神奈川県農業総合研究所 長野県野菜花き試験場 静岡県農業試験場 岐阜県中山間農業技術研究所 愛知県農業総合試験場 兵庫県立農林水産技術総合センター 福岡県農業総合試験場 千葉大学 神戸大学 千葉県立衛生短期大学 (独)農林水産消費技術センター	14～16	塩基バランス制御によるホウレンソウ、キャベツの硝酸塩濃度低減化	土壌作物栄養
日本短角種 DM 牛の特性解明と系統造成	◎東北大学大学院農学研究科 (独)農業技術研究機構	15～19	DMヘテロ繁殖雌牛にDMヘテロ凍結精液を人工授精して DM ホモ牛群の造成を行うとともに、DM 牛の生殖特性と発育特性の解析を行う	外山畜産 家畜工学
寒締め野菜の高品質化シナリオの策定と生産支援システムの開発	◎(独)東北農業研究センター 福島県農業試験場 秋田県立大学 農業情報コンサルティング(株) JA十和田市	15～17	寒締め野菜の環境調節シナリオの策定	産地育成
やませ気象下の水稲生育・被害予測モデルと冷害回避技術の開発	◎(独)東北農業研究センター 青森県農林総合研究センター 岩手県工業技術センター 宮城県古川農業試験場 福島県農業試験場 (財)日本気象協会 JA新いわて	16～18	減化学肥料栽培条件下におけるいもち病発病変動予測	環境保全
			直播水稲の収量、品質安定化のための作期設定	水田作
			冷害被害米の品質特性を活かした加工技術の開発	保鮮流通技術

課題名	共同研究機関 （◎は中核機関）	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	◎(独)果樹研究所 長野県果樹試験場 宮城県農業園芸総合研究所 岐阜大学 岩手大学 JAいわて中央	16～20	経済効果の高いリンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定技術の開発	果樹
多機能性新規ベリーの産地化技術の確立と新加工品の開発	◎東北大学 岩手県工業技術ｾﾝﾀｰ 陸前高田市総合営農指導ｾﾝﾀｰ (有)神田葡萄園	16～18	多機能性新規ベリーの生産安定化技術の確立	果樹
寒冷地における耕作放棄地の草地化とミニ放牧技術の開発	◎(独)東北農業研究センター 福島県畜産試験場 岩手大学農学部	16～18	狭小草地における子牛の放牧育成技術の開発	外山畜産

(6) 民間委託研究（10／10 委託）

事業名・課題名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
たばこ耕作資材試験	(財)日本葉たばこ技術開発協会	継続	資材　3 件	やませ利用
農薬及び植物調節剤等の効果検定試験	(社)日本植物防疫協会	継続	新農薬効果試験　63 件	病理昆虫 果樹 営農技術
	(財)日本植物調節剤研究協会	継続	除草剤実用化試験　39 件	水田作 果樹 野菜畑作 花き 飼料生産 産地育成 やませ利用
	(株)丸尾ｶﾙｼｳﾑ	16	新資材実用化試験　1 件	果樹
肥料の効果等に関する試験	岩手県施肥合理化協議会	継続	水田作　2 件 生産工学　1 件 果樹　2 件 野菜畑作　5 件 南部園芸　4 件 土壌作物栄養　5 件 保鮮流通技術　1 件 営農技術　7 件 産地育成　4 件	主査： 土壌作物栄養

(7) 夢県土いわて戦略的研究推進事業（科学技術課所管　公募競争型　県単）

課　題　名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
フラットベッドスキャナを用いた土壌全炭素簡易推定キット開発	工業技術ｾﾝﾀｰ	15～16	土壌全炭素含量の簡易推定用キット試作品開発	土壌作物栄養
野菜類の残留農薬分析における簡易分析法の開発	環境保健研究ｾﾝﾀｰ	15～17	イムノアッセイ法による野菜類の残留農薬の簡易・迅速な分析手法の開発	環境保全
農作物病害虫及び生理障害の画像診断ｼｽﾃﾑ開発のための基礎調査 （試験研究機関機能強化推進事業可能性調査研究）	東海大学開発工学部	16	病害虫・生理障害の誤診を防ぐため、診断のノウハウをデータベース化し、生産者自らが診断できるシステムを開発するための先進研究調査。	病理昆虫

(8) （財）岩手生物工学研究センターとの共同研究

農業研究センター課題名	生物工学研究センター課題名	研究の内容	担当研究室
りんどうのウイルスフリー化技術の確立	りんどう病原ウイルスの検出・診断技術の利用	生工研が開発した技術を応用した実用化技術を開発し、りんどうの優良種苗供給に利用する。	応用生物工学
小ぎくのウイルスフリー化技術の確立	トマト黄化えそウイルス（TSWV）の検出・診断技術の確立及び利用	生工研が開発した技術を応用した実用化技術を開発し、小ぎくの優良種苗供給に利用する。	応用生物工学
各種病原の検出・診断技術	ピーマン病原ウイルス（PMMoV）の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	生工研が開発した病原の検出手法を実用化技術に仕上げると共に、現地において簡易に高感度で迅速な診断法を開発する。	応用生物工学
水稲重要形質と連鎖した DNA マーカーの探索 いもち病真性抵抗性遺伝子に関連した DNA マーカーの探索とその実用化	DNA マーカーを用いた水稲特性検定法の確立	生工研と共同で遺伝子解析に基づく DNA マーカーを開発し、岩手オリジナル品種の育成を加速化する。	水稲育種 応用生物工学
りんどうの F1 優良個体の大量増殖 突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価	アグロバクテリウム・リゾジェネス A4 菌を用いた矮化りんどうの特性評価	生工研が開発した A4 菌感染矮性リンドウの増殖手法検討と特性調査を行い、新品種を早期に育成する。	応用生物工学 花き

(9) 大学との共同研究

課　題　名　等	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
カイコ及び野蚕からの 新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～	カイコの抗カビ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫

(10) 他の公設試との共同研究

課　題　名　等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	果樹
新規育成小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	野菜畑作
大豆有望系統の加工適性・用途開発	工業技術センター	7～	野菜畑作
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	水稲育種

(11) ＡＦＲ（岩手農林研究協議会）研究会

ア　研究会

名　　称	構　　成	研究期間	共同研究者
花卉育種研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ	10～	児玉　勝雄、阿部　潤、茂市　修平、川村　浩美、千葉　賢一、藤井　伸行、高橋　聡子、葛巻美知子、小田島　雅
昆虫機能利用研究会	◎岩手大学農学部・教育学部、岩手医大、農業研究ｾﾝﾀｰ、岩手県立農業大学校	10～	鈴木　敏男、大友　令史、桐山　直盛
植物育種研究会	◎岩手大学農学部・教育学部、生物工学研究所、東北農業研究ｾﾝﾀｰ、農業研究ｾﾝﾀｰ	10～	木内　豊、中野　央子、仲条　眞介、田村　和彦、阿部　陽

名　　称	構　　成	研究期間	共同研究者
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、◎農業研究ｾﾝﾀｰ	10～	鈴木　敏男、勝部　和則、猫塚　修一、阿部　　弘
機能性食品研究会A（雑穀）	◎岩手大学農学部、岩手大学大学院連合農学研究科、工業技術ｾﾝﾀｰ、東北農業研究ｾﾝﾀｰ、農業研究ｾﾝﾀｰ、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場	10～	大清水保見、長谷川　聡
機能性食品研究会B（豆腐）	◎岩手大学農学部、工業技術ｾﾝﾀｰ、農業研究ｾﾝﾀｰ、黒川食品（株）、花巻起業化支援ｾﾝﾀｰ	10～	門間　　剛
農作業システム自動化研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ	10～	高橋　　修、大里　達朗、藤井　智克、高橋　昭喜
乳牛の周産期疾患研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ畜産研究所、小岩井農牧、日本金薬工業	10～	阿閉　博明、菊地　正人、山口　直己、茂呂　勇悦
水稲栽培研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ	11～	高橋　政夫、大清水保見、小田中温美、尾形　　茂、臼井　智彦、漆原　昌二、藤田　智美、及川　あや
果樹栽培研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ	11～	佐々木　仁、小野　浩司、大野　　浩、河田　道子、奥平麻里子、浅川　知則
リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究ｾﾝﾀｰ、農業研究ｾﾝﾀｰ、安代町花き開発ｾﾝﾀｰ	11～	阿部　　潤、児玉　勝雄、竹澤　利和、阿部　　弘、臼井　紀子
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、◎農業研究ｾﾝﾀｰ、生物工学研究所	12～	木内　　豊、竹澤　利和、中野　央子、仲条　眞介、田村　和彦、阿部　　陽
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、◎農業研究ｾﾝﾀｰ	12～	飯村　茂之、鈴木　敏男、折坂　光臣、勝部　和則、大友　令史、桐山　直盛、長谷川　聡
ホップの機能性研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ	11～	高橋　　壮
有機質資源循環利用研究会	◎岩手大学農学部、工業技術ｾﾝﾀｰ、農業研究ｾﾝﾀｰ	12～	小野　剛志、高橋　　修、多田　勝郎、川畑　茂樹、折坂　光臣、佐藤　千秋、高橋　良学、佐藤ルミ子、松浦　拓也
始原生殖細胞（PGCs）利用研究会	◎岩手大学農学部、農業研究ｾﾝﾀｰ、小岩井農牧	13～	小松　繁樹、吉田　登
里地・里山生物多様性研究会	◎岩手大学人文社会科学部、県立博物館、（社）岩手県植物防疫協会、環境保健研究ｾﾝﾀｰ、農業研究センター	14～	武田　眞一、築地　邦晃、鈴木　敏男、阿部　節男、佐藤千穂子、大友　令史
硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究ｾﾝﾀｰ、農業普及技術課、◎農業研究ｾﾝﾀｰ	14～	築地　邦晃、小野　剛志、多田　勝郎、中野　亜弓、平賀　昌晃、佐藤ルミ子、高橋　好範
食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究ｾﾝﾀｰ、工業技術ｾﾝﾀｰ、◎農業研究ｾﾝﾀｰ	14～	小松　繁樹、川畑　茂樹、阿閉　博明、吉田　　登、安田　潤平
農業ＩＴ活用研究会	岩手県立大学、八戸工業高等専門学校、農業普及技術課、◎農業研究ｾﾝﾀｰ	15～	武田　眞一、鈴木　敏男、折坂　光臣、前山　　薫、勝部　和則、大友　令史、猫塚　修一、高橋　良学、沼田　芳宏、佐藤千穂子、桐山　直盛、松浦　拓也

イ　AFR 協議会等の開催

開催月日	場　　所	内　　容
16. 7.30	岩手労働福祉会館	(1) AFR 協議会　　現状評価、今後の活動予定、報告事項 (2) 成果報告会　　84 名出席　5 成果を報告　農業研究センターからは 2 成果 ●　「農薬使用基準チェックシステムの開発～正しい農薬情報の提供を目指して～」 　病理昆虫研究室　専門研究員　猫塚修一 ●　「マニュアスプレッダー利用による地域内有機物の急速堆肥化技術」 　県北農業研究所　次長　小野剛志
16.12.10	岩手大学	シンポジウム 「農林畜水産業と水の関わり～水の機能化の本質」 岩手大学農学部助教授　三浦　靖 「外食産業から見た岩手の食材～地産地消の価値」 （株）メルク代表取締役　重石　桂司

(12) その他共同研究

課　題　名	相手方	研究期間	研　究　の　内　容	担当研究室
黒毛和種及び日本短角種における経済形質に関わるゲノム解析研究	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の半兄弟家系を作成し、DNA マーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、劣性遺伝病について、発病牛家系の DNA マーカーによる連鎖解析を行い、原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜工学
降霜予測手法の開発	横河電子機器（株）	14～16	(1) 降霜現象を気象因子から解析し、降霜推定式を開発する。 (2) 降霜現象を客観的に自動でモニタリングする手法を開発する。	環境保全
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	(1) 植物、動物、微生物の生物遺伝資源及び DNA の相互交換	－

(13) その他産学官連携

名称	開催月日	場　　所	内　　容
岩手県産官学連携会議	年 2 回	盛岡市ほか	事務局：岩手大学地域共同研究センター
作物ゲノム育種ネットワークグループ	－	－	事務局：(独)作物ゲノム育種センター 参加職員：田村和彦、竹澤利和、安ヶ平紀子
寒冷圏未利用資源研究ネットワーク	－	－	事務局：岩手大学大学院連合農学研究科

6　現地試験の実施

内　容　（　試験研究課題名　）	市町村名	地 区 名	担　当
			企画経営情報部
果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証	紫波町		○農業経営 野菜畑作
			農産部
県産米の品質・食味レベルアップ現地実証栽培 （純情米総合実証展示圃）	一関市	中里	水田作
	前沢町	古城	
	水沢市	佐倉河	
	胆沢町	大畑平	
	金ヶ崎町	永栄	
	江刺市	稲瀬	
	北上市	飯豊	
	花巻市	宮野目	
	東和町	前田	
	遠野市	青笹	
	石鳥谷町	八幡	
	雫石町	安庭	
	西根町	平笠	
	九戸村	荒谷	
水稲奨励品種決定現地調査　（粳）	雫石町	上野	水田作
（粳）	紫波町	星山	
（粳）	西根町	大更	
（粳）	花巻市	矢沢	
（粳）	沢内村	前郷	
（粳）	胆沢町	小山	
（粳）	江刺市	稲瀬	
（粳）	花泉町	花泉	
（粳）	千厩町	千厩	
（粳）	遠野市	青笹	
（粳）	山田町	豊間根	
（粳）	陸前高田市	竹駒町	
（粳）	種市町	宿戸	
（粳）	浄法寺町	浄法寺	
（糯）	紫波町	南日詰	
（糯）	一関市	厳美町	
寒冷地北部におけるホールクロップサイレージ用イネの栽培実証（ブランドニッポン）	紫波町	片寄	水田作
不良環境地帯向け水稲品種の育成	沢内村	高下	水稲育種
二子いも高付加価値生産に向けた培養苗生産技術開発	北上市	二子町	応用生物工学
ロングマット水耕苗移植栽培技術の確立と実証	江刺市 胆沢町	藤里 小山	○生産工学 水田作 土壌作物栄養 農業経営
ほ場整備直後の明渠掘削効果	胆沢町	小山	生産工学
寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証	千厩町	奥玉	生産工学
輪換畑ほ場における暗渠排水管を利用した地下かんがい及び排水技術の確立	水沢市 北上市	真城 二子	生産工学
環境に配慮した農村整備手法の確立	宮守村 川崎村	鱒沢 門崎	生産工学

内　容　（　試験研究課題名　）	市町村名	地 区 名	担　当
麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	北上市	藤根	○生産工学 野菜畑作 土壌作物栄養 農業経営
			園芸畑作部
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 江刺市 花泉町	金田一 内の沢 煙山 小倉沢 金沢	果樹
食味本位リンゴ栽培体系化実証試験	紫波町	長岡	果樹
麦類奨励品種決定現地調査	紫波町 東山町	水分 長坂	野菜畑作
大豆奨励品種決定現地調査	前沢町 藤沢町	古城 要害	野菜畑作
麦類耐雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	野菜畑作
豆腐有望品種現地導入試験	江刺市 二戸市	田原 金田一	野菜畑作
納豆用有望品種現地試験	滝沢村	篠木	野菜畑作
地域確立「寒冷地イチゴ」現地実証	盛岡市	飯岡	野菜畑作
ネギの低コスト・安定供給技術の実証	花巻市	太田	野菜畑作
ピーマン PMMoV 抵抗性品種の現地実証	石鳥谷町	黒沼	野菜畑作
りんどう品種育成に係る現地調査	石鳥谷町 沢内村 衣川村	北寺林 川舟 楢原	花き
小ぎく品種育成に係る現地調査	北上市	江釣子	花き
りんどうこぶ症の発生要因の解明現地試験	石鳥谷町 松尾村	戸塚 野駄	花き
りんどう除草剤試験	花巻市	湯口	花き
水田地帯における園芸生産の高度安定化 「イチゴ栽培における省力技術導入による高度生産化」	花泉町	永井	南部園芸
東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 「トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証」	大東町	大原	南部園芸
			生産環境部
水稲減農薬栽培地域の水系における農薬動態の解明	雫石町	西山	環境保全
水稲におけるカドミウム吸収抑制栽培管理技術の確立	花巻市		環境保全
野菜類のカドミウム吸収特性の解明	花巻市		環境保全
畑作地帯における硝酸性窒素等の動態解明と負荷軽減技術の評価	県内２カ所		環境保全
りんどうの養分吸収特性の解明	沢内村 安代町	猿橋 松木田	土壌作物栄養

内　容　（　試験研究課題名　）	市町村名	地 区 名	担　当
土壌管理（有機物・塩基バランス制御）によるホウレンソウ、キャベツの硝酸濃度低減化	西根町 遠野市	平笠、帷子 小友町	土壌作物栄養
県内産有機原料を配合した減化学対応肥料の効果確認	北上市	飯豊	土壌作物栄養
産業廃棄物（石膏）からのカルシウム・イオウの効果と酸性矯正確認	西根町	平舘	土壌作物栄養
安全安心な水稲栽培技術の総合実証	玉山村 雫石町 江刺市	巻堀 御明神 稲瀬	○環境保全 土壌作物栄養
			病害虫部
りんどう葉枯れ症状の原因解明と防除法	衣川村	楢原	病理昆虫
地域特産物における新防除資材の実用化	一関市 石鳥谷町	本寺 新堀	病理昆虫
りんごにおける病害虫総合防除技術の開発	一関市 紫波町	厳美 東長岡 舟久保	病理昆虫
施設ピーマンの病害虫総合防除の実証	胆沢町	小山	病理昆虫
			畜産研究所
転作田における牧草導入時期の検討	紫波町	南伝法寺	飼料生産
長大型飼料作物ラップサイレージの調整・品質技術の確立	岩泉町	釜津田	飼料生産
良質イネホールクロップサイレージ調製技術の確立	紫波町	－	飼料生産
			県北農業研究所
奥中山地域における液状コンポストの調製利用システムの確立	一戸町	奥中山	営農技術
県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立	軽米町	山内	営農技術
新肥料の実用化	九戸村 軽米町 西根町	長興寺 板橋 上坊	営農技術
高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (1)腐敗性病害の発生実態解析	一戸町	奥中山	営農技術
地域ブランド化のためのナガイモ栽培技術の確立	岩手町 軽米町	一方井 野場	営農技術
雑穀の省力・安定栽培技術確立	軽米町	岩崎	営農技術
雑穀の高付加価値栽培技術確立	花巻市	円万寺	営農技術
高冷地レタスの高位安定生産技術の確立 (2)優良品種の選定 (3)総合防除技術の確立	一戸町 〃	奥中山 〃	産地育成 〃
カラシナによるホウレンソウ萎凋病軽減技術の開発	軽米町	軽米	産地育成
奨励品種決定現地調査（小麦・大豆）	玉山村	下田	やませ利用
アワの生分解性マルチ移植栽培技術実証	山形村	霜畑	やませ利用